阪南市埋蔵文化財報告 38

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XXI

２００６年

阪南市教育委員会

はしがき

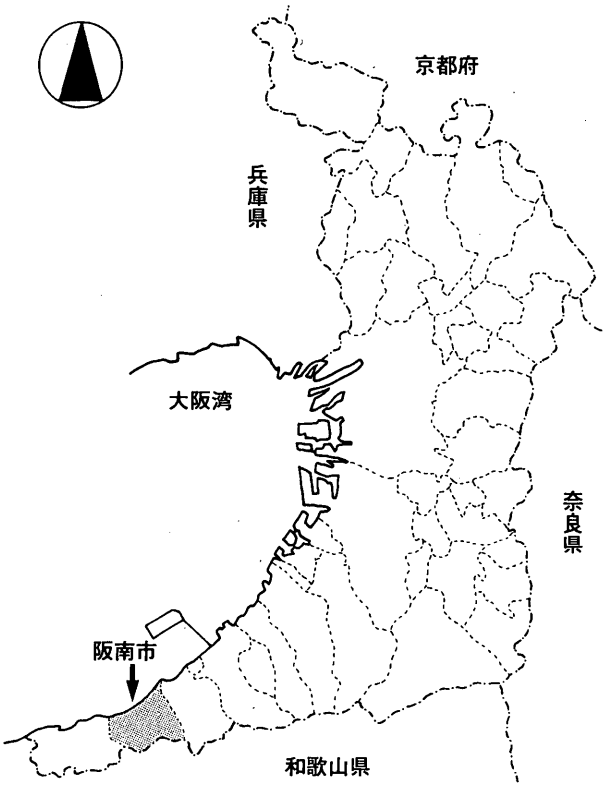
阪南市には、現在埋蔵文化財の包蔵地が約６０ヶ所あります。本市教育委員会では、この包蔵地内で土木工事などが行われる場合、文化財保護法に基づく届け出を受け、発掘調査などの保護施策を講じています。

本書はこれらの調査のうち、個人住宅建築などの土木工事に伴い、国庫補助事業として実施した発掘調査の報告書です。これらの調査は、いずれも小規模な調査ですが、例年いくつかの成果をあげています。

今年度は、以下に９遺跡で実施した１７ヶ所の報告を行います。上述のように、小規模な調査ばかりでしたが、尾崎清水遺跡では古墳時代の竪穴住居が検出されるなどの成果がありました。

末筆になりましたが、関係の土地所有者の方々には、ご協力をたまわりましたことに、感謝申し上げます。

２００６年３月
阪南市教育委員会
教育長　川村一郎



第１図　阪南市位置図

例　　言

1．本書は阪南市教育委員会生涯学習推進課が平成17年度国庫補助事業として計画実施した阪南市埋蔵文化財発掘調査概要報告書である。

2．調査は生涯学習推進課主幹三好義三、田中早苗、上野　仁及び横澤　慈を担当として実施した。

3．本書内に示した標高はＴ．Ｐ．である。

4．調査にあたっては土地所有者など、関係者各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。

5．本書の執筆、編集は上記の調査担当者が行った。また、発掘調査、整理作業には以下の従事者があたった。

6．本調査における記録は、実測図、写真、カラースライドなどに保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

（調査従事者）根無吉隆、南竹千代、大家　嶌、和田旬世、井上祥子、井上　進、島田万帆、松本武志、中寺幸子、広島良子、西山恵子、布施孝子、谷口恒子、吉田芳美、千野　俊

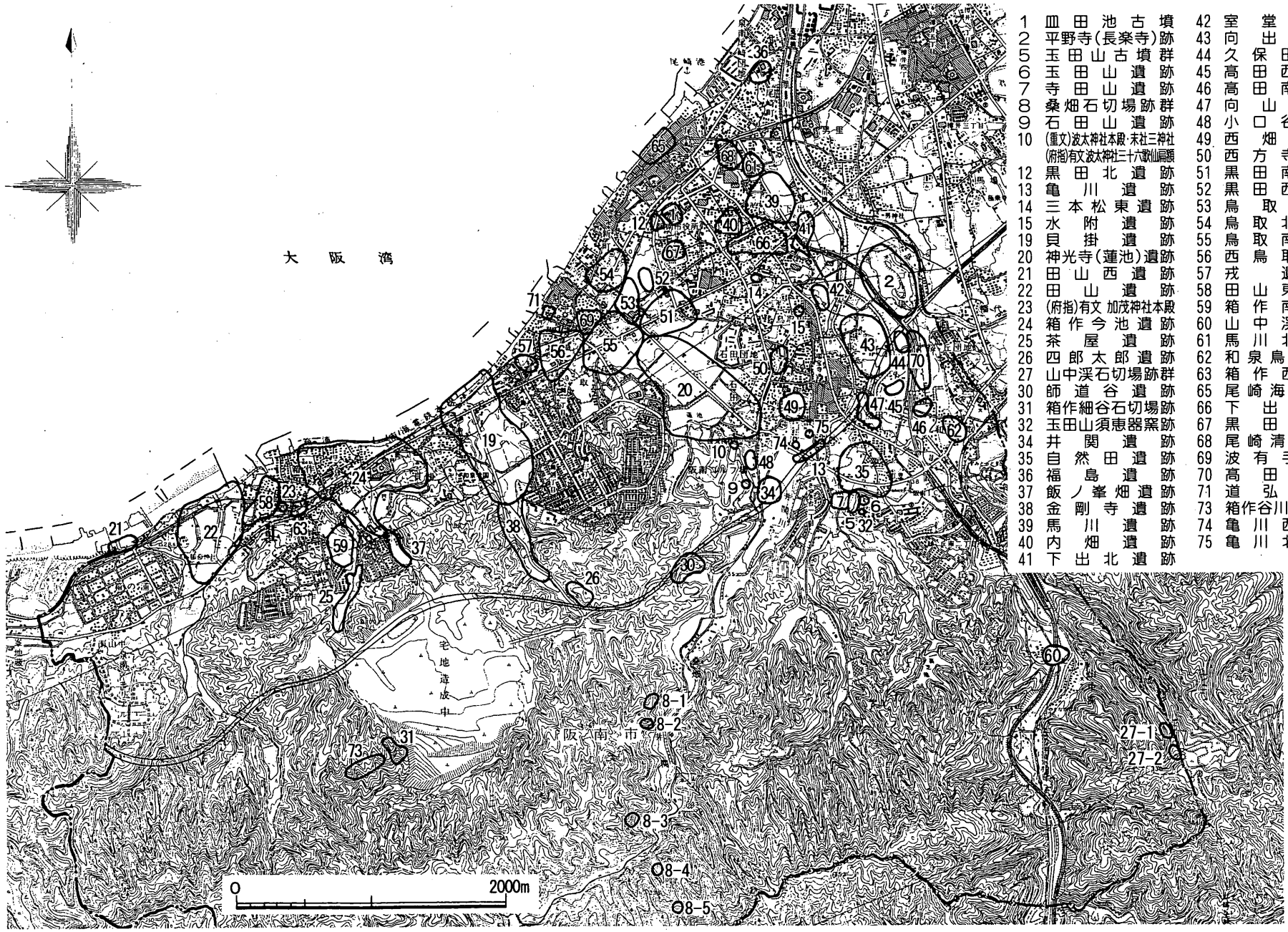
目　　次

第１章　調査の成果

第１節　尾崎清水遺跡	（１）０５－２区	4
	（２）０５－３区	
第２節　尾崎海岸遺跡	（１）０５－１区	7
第３節　鳥取北遺跡	（１）０４－１区	8
第４節　西鳥取遺跡	（１）０４－２区	9
第５節　神光寺(蓮池)遺跡	（１）０４－12区	
	（２）０５－６区	
	（３）０５－７区	
第６節　向出遺跡	（１）０４－１区	11
第７節　貝掛遺跡	（１）０５－１区	12
	（２）０５－２区	
第９節　箱作今池遺跡	（１）０４－５区	13
	（２）０４－６区	
	（３）０５－２区	
	（４）０５－７区	
	（５）０５－８区	
第10節　田山東遺跡	（１）０５－１区	18

第２章　市内分布調査の成果　20

第３章　まとめ　22



1 皿田池古墳
2 平野寺(長楽寺)跡
5 玉田山古墳群
6 玉田山遺跡
7 寺田山遺跡
8 桑畑石切場跡群
9 石田山遺跡
10 (重文)波太神社本殿・末社三神社
(府指)有文 波太神社三十六歌仙扁額
12 黒田北遺跡
13 亀川遺跡
14 三本松東遺跡
15 水附遺跡
19 貝掛遺跡
20 神光寺(蓮池)遺跡
21 田山西遺跡
22 田山遺跡
23 (府指)有文 加茂神社本殿
24 箱作今池遺跡
25 茶屋遺跡
26 四郎太郎遺跡
27 山中渓石切場跡群
30 師道谷遺跡
31 箱作細谷石切場跡
32 玉田山須恵器窯跡
34 井関遺跡
35 自然田遺跡
36 福島遺跡
37 飯ノ峯畑遺跡
38 金剛寺遺跡
39 馬川遺跡
40 内畑遺跡
41 下出北遺跡
42 室堂遺跡
43 向出遺跡
44 久保田遺跡
45 高田西遺跡
46 高田南遺跡
47 向山遺跡
48 小口谷遺跡
49 西畑遺跡
50 西方寺遺跡
51 黒田南遺跡
52 黒田西遺跡
53 鳥取遺跡
54 鳥取北遺跡
55 鳥取南遺跡
56 西鳥取遺跡
57 戎遺跡
58 田山東遺跡
59 箱作南遺跡
60 山中渓遺跡
61 馬川北遺跡
62 和泉鳥取遺跡
63 箱作西遺跡
65 尾崎海岸遺跡
66 下出遺跡
67 黒田遺跡
68 尾崎清水遺跡
69 波有手遺跡
70 高田遺跡
71 道弘寺跡
73 箱作谷川石切場跡
74 亀川西遺跡
75 亀川北遺跡

第2図　阪南市埋蔵文化財分布図

第１章　調査の成果

第１節　尾崎清水遺跡

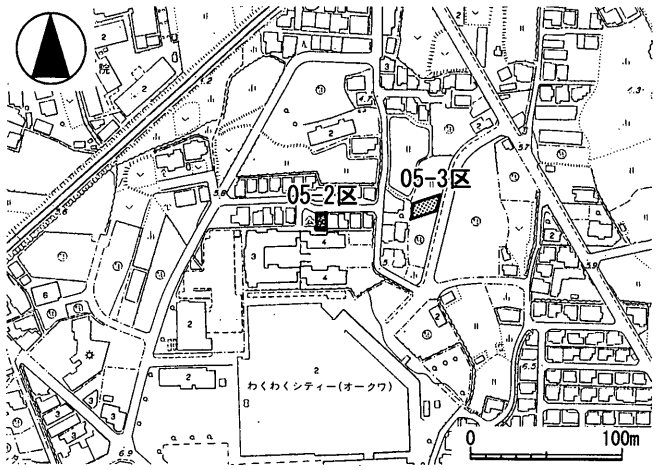
（1）０５－２区（第３・４図）

調査地は、尾崎清水遺跡の南部に位置する。

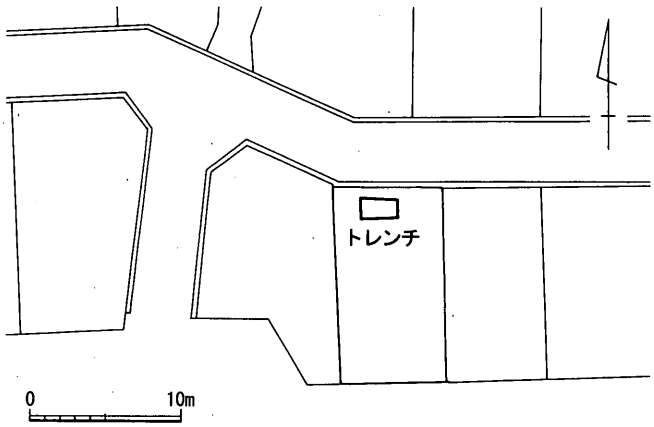
調査は調査区内に2.4m×1.4mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層青灰色礫混土の地山である。

遺構は検出されず、遺物は耕作土から陶器、磁器、瓦、土師質管状土錘が出土した。



第３図　尾崎清水遺跡調査区位置図



第４図　尾崎清水遺跡05-2区　トレンチ位置図

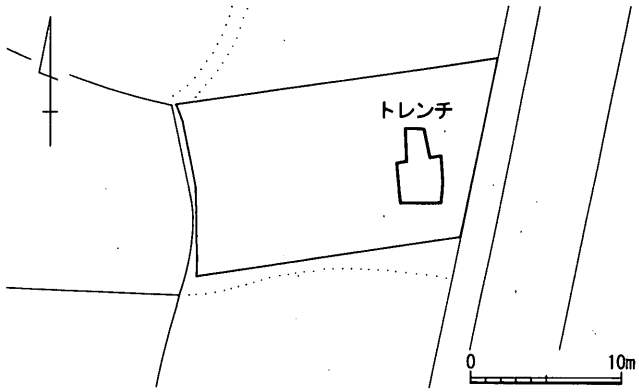
（2）０５－３区（第３・５～７図）

調査地は尾崎清水遺跡の南端にあたり、調査面積は9.8㎡である。

調査区の基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層褐色土、第４層明黄灰茶色土の地山である。

遺物は第３層からサヌカイト、須恵器、土師器、瓦器、白土器、土師質土器、磁器、土師質有孔土錘、瓦などが出土した。近世期の包含層である。１は白土器の皿である。

遺構は溝１、竪穴住居１を検出した。



第５図　尾崎清水遺跡05-3区　トレンチ位置図

溝は長さ1.0m以上、幅0.8m、深さ0.16mで南北方向のものである。竪穴住居の上面で検出し、埋土は明灰色砂質土である。遺物は縄文土器、須恵器、土師器が出土した。２は縄文時代晩期の深鉢である。検出面の状況から中世期の遺構と思われる。

竪穴住居は地山面で検出した。規模は東西2.5m以上、南北2.5m以上だが、全体の形状などは不明である。埋土は上層がマンガン混じりの暗灰色土、下層が地山土混じりの暗灰色土である。遺物は上層から石器、須恵器、土師器、土師質有孔土錘、下層から縄文土器が出土した。３～10は須恵器で３～８は杯蓋、９・10は杯身である。11～12は土師器甕、13は土師質有孔土錘、14は和泉砂岩の敲石である。上層から出土した。15は縄文土器の深鉢で、下層から出土した。

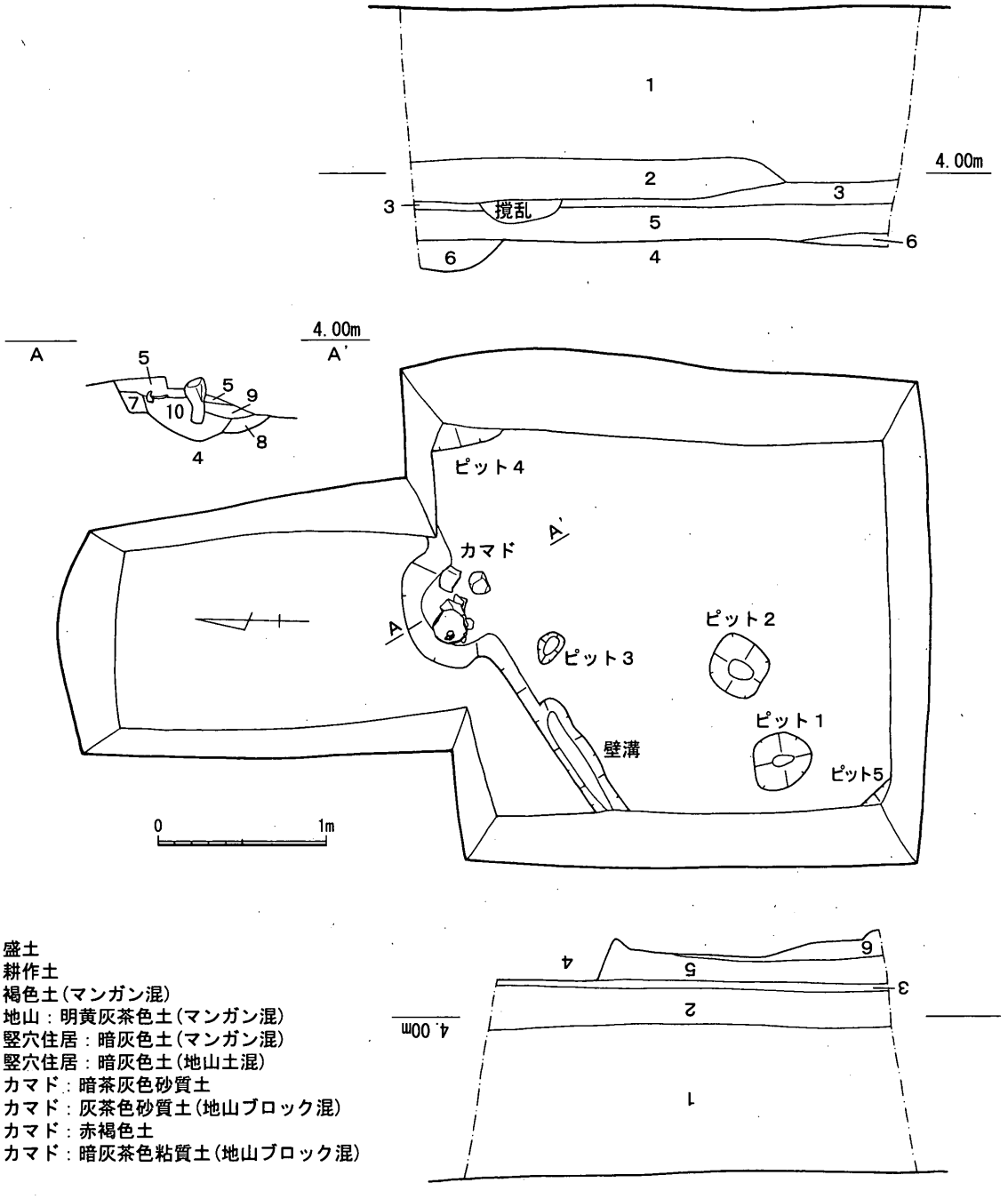
内部施設として床面でピットを５、壁溝、カマド１を検出した。

ピット１は直径0.35m、深さ0.18mで埋土は地山土混じりの暗灰色土である。遺物は縄

文土器、土師器が出土した。16は縄文土器の深鉢である。ピット２は直径0.39m、深さ0.06mで埋土はピット１と同じである。遺物は須恵器、土師器が出土したが、図化できなかった。ピット３は直径0.18m、深さ0.05mで、埋土はピット１と同じで、遺物は出土しなかった。ピット４・５は一部が検出されたのみで、大きさは不明である。埋土はピット１と同じである。遺物は出土しなかった。

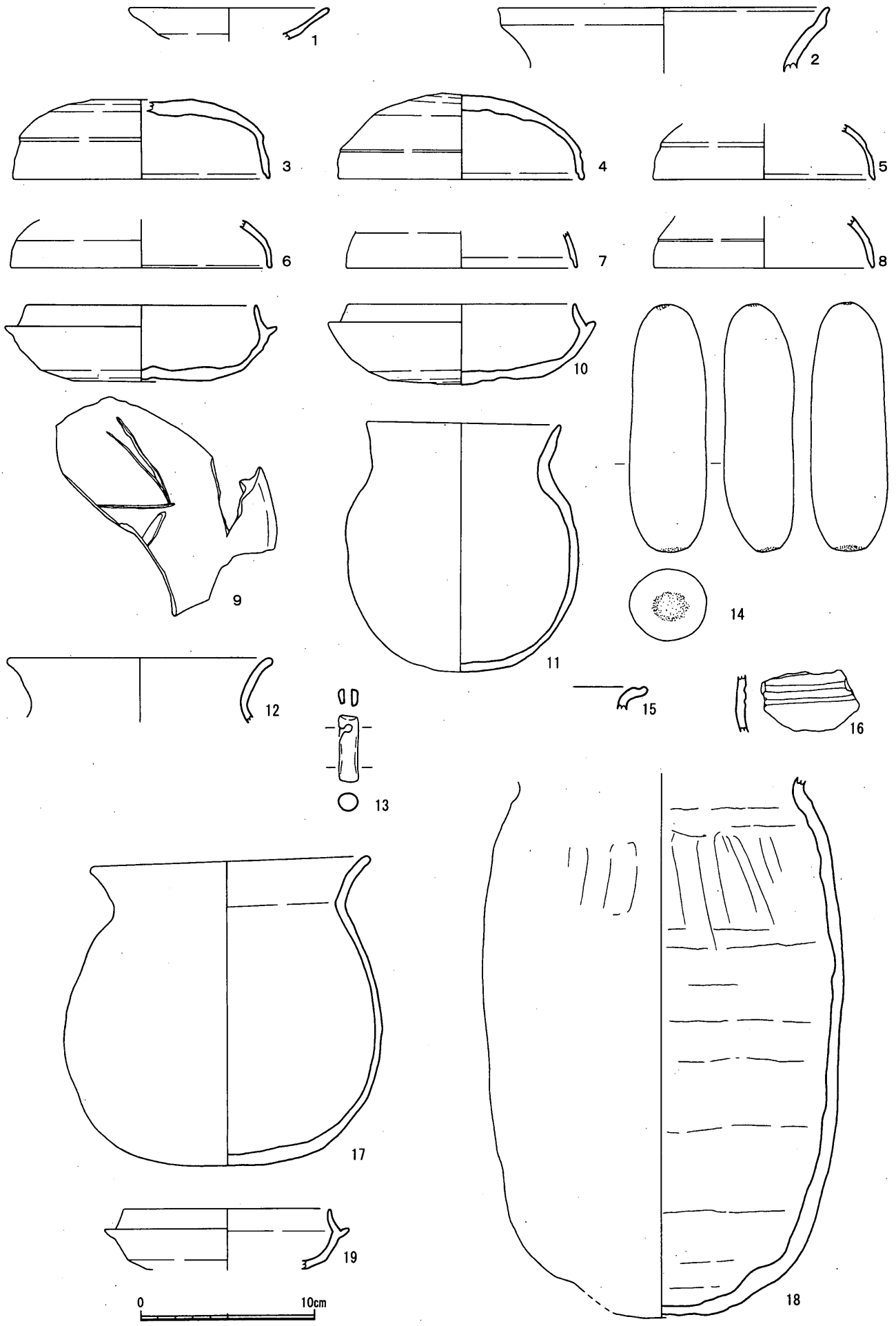
壁溝は竪穴住居の北側で一部を検出したのみである。埋土はマンガン混じりの暗灰色土で、遺物は出土しなかった。

カマドは竪穴住居の北側で検出した。壁面より約0.3m程外部に張出し、置土などは確認できなかった。燃焼部は住居床面よりやや高く、中央部には基底部より掘り込んで埋め



1　盛土
2　耕作土
3　褐色土(マンガン混)
4　地山：明黄灰茶色土(マンガン混)
5　竪穴住居：暗灰色土(マンガン混)
6　竪穴住居：暗灰色土(地山土混)
7　カマド：暗茶灰色砂質土
8　カマド：灰茶色砂質土(地山ブロック混)
9　カマド：赤褐色土
10　カマド：暗灰茶色粘質土(地山ブロック混)

第６図　尾崎清水遺跡05-3区 トレンチ平面図・断面図

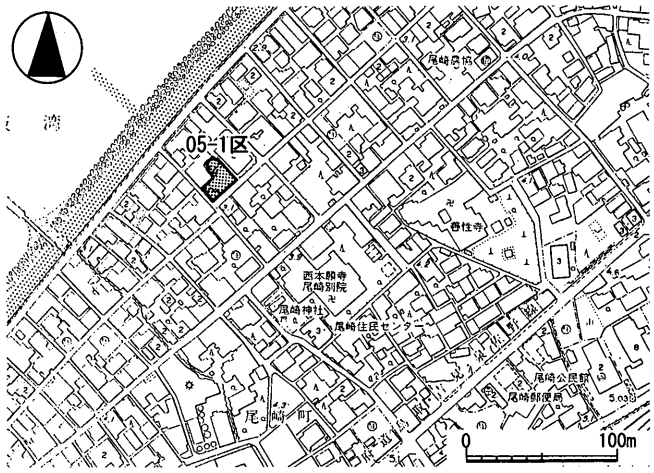


第７図　尾崎清水遺跡05-3区 出土遺物

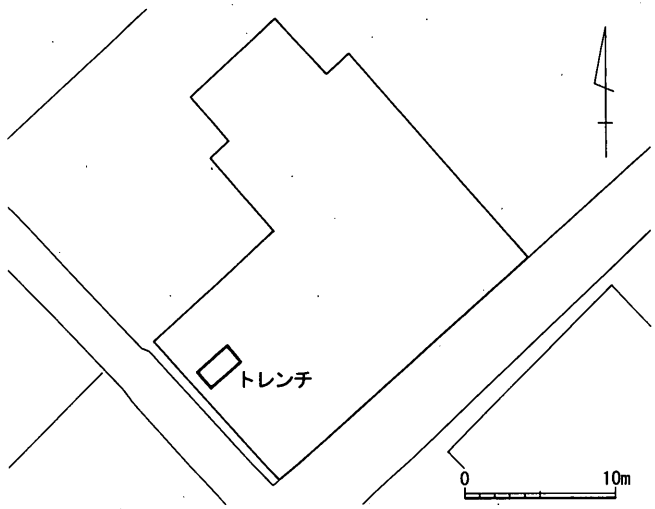
た自然石の支脚が１点確認できた。支脚前面の火床面は被熱のため赤褐色に焼け締まり、後部には土器が散乱していた。炭化物層などのカマド使用時の堆積層はみられなかった。煙道部については上部が大きく削平されているために不明である。

遺物は火床面で土師器が、支脚の埋土から土師器、須恵器が出土した。17・18は土師器の甕で火床面から、19は須恵器の杯身で、暗茶灰色砂質土から出土した。

６世紀前半の遺構である。



第８図　尾崎海岸遺跡調査区位置図



第９図　尾崎海岸遺跡05-1区　トレンチ位置図

第２節　尾崎海岸遺跡

（１）０５－１区（第８～11図）

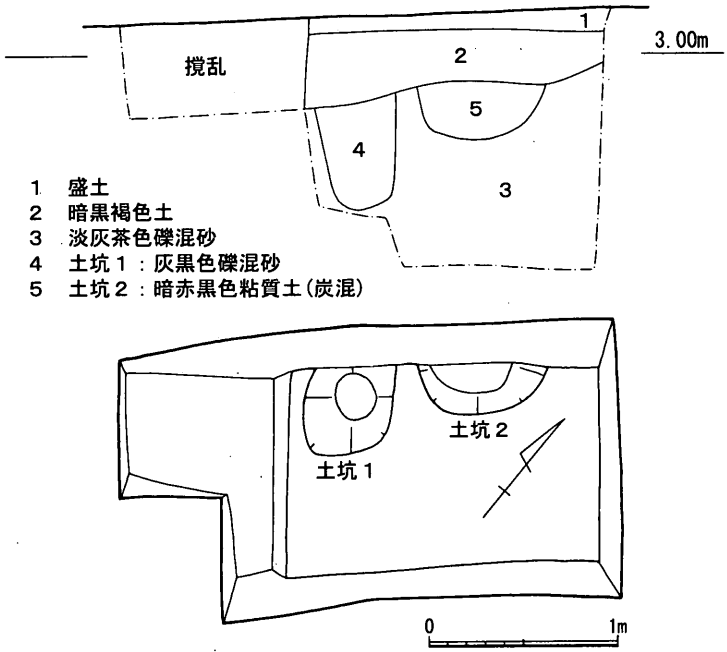
調査地は尾崎海岸遺跡のほぼ中央にあたり、既往の調査で弥生時代末期～古墳時代初頭の製塩土器溜りや炉を検出した90－１区の南西に隣接する。調査は調査区内に2.6m×1.3mのトレンチを設定して実施した。調査面積は3.4㎡である。

基本層序は第１層盛土、第２層暗黒褐色土、第３層淡灰茶色礫混砂である。地表面より1.5m以上掘削したが、地山は確認できなかった。

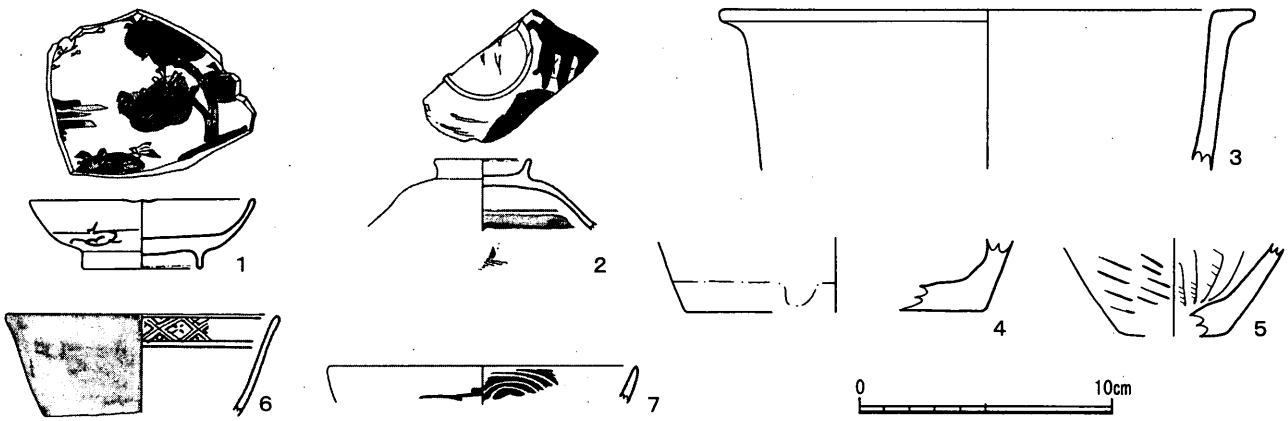
遺物は第２層から土師質土器、陶器、磁器、第３層から弥生土器、製塩土器、土師質土器、陶器、磁器、瓦、鉄釘が出土したが、近代以降のものを含む。

１は染付磁器の輪花皿である。見込みに樹木文を施す。肥前産と思われる。

２は染付磁器碗蓋で、口縁部を欠失するが端反している。外面に山水文を描く。肥前産で19世紀代のものである。３は陶器の鉢と思われる。４は陶器の壺ないし甕の底部である。５は真蛸壺の底部である。摩滅が著しいが外面にタタキ、内面見込みに簾状のハケメが認められ、弥生時代後期にあたる。１は第２層、２～５は第３層から出土した。



第10図　尾崎海岸遺跡05-1区　トレンチ平面図・断面図



第11図　尾崎海岸遺跡05-1区 出土遺物

遺構は第３層上面で土坑を２検出した。

土坑１は長径0.50m以上の楕円形で、深さ約0.55mを測る。埋土は灰黒色礫混砂で、遺物は土師質土器、磁器、瓦、石製品が出土した。６は染付磁器碗である。いわゆる肥前青磁で、内面口縁下に四方襷を描く。18世紀代のものである。

土坑２は直径約0.70m、深さ約0.30mを測る焼土坑である。埋土は焼土や炭を含む暗赤黒色粘質土で、遺物は磁器、瓦が出土した。７は肥前産の染付磁器碗で、近世期のものである。

第３節　鳥取北遺跡

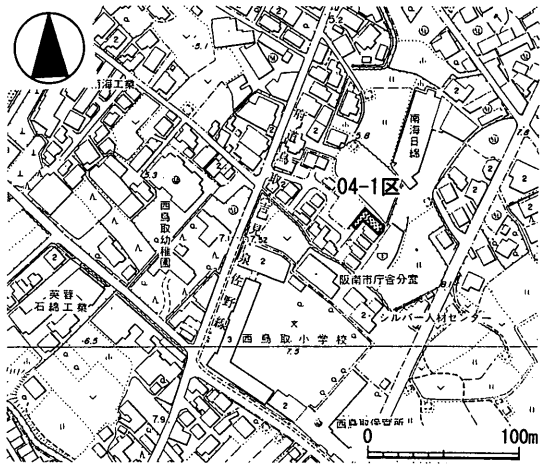
（１）０４－１区（第12～14図）

調査地は鳥取北遺跡の北東部に位置する。

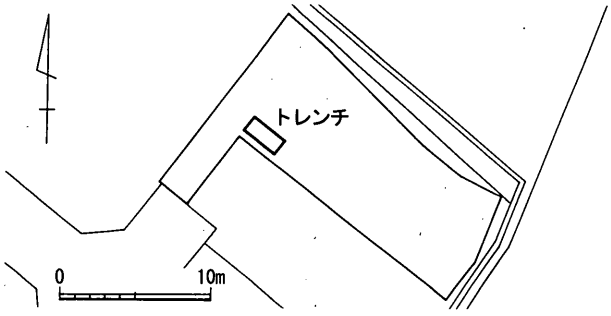
調査は調査区内に2.6m×1.2mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層青灰色砂質土、第４層黄茶灰色砂質土、第５層淡黄茶色砂質土である。遺構は検出されなかったが、第４・５層の堆積状況などから流路の可能性も考えられる。

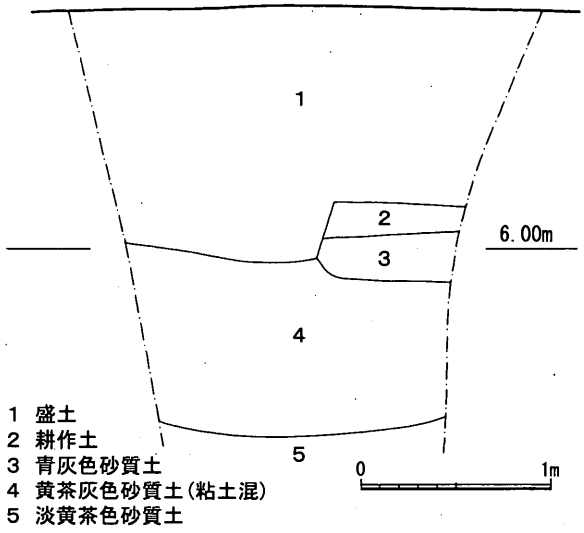
遺物は第４層から土師質土器、瓦器、土師質蛸壺が出土した。



第12図　鳥取北遺跡調査区位置図



第13図　鳥取北遺跡04-1区 トレンチ位置図



第14図 鳥取北遺跡04-1区 トレンチ南側断面図

第４節　西鳥取遺跡

（１）０４－２区（第15～18図）

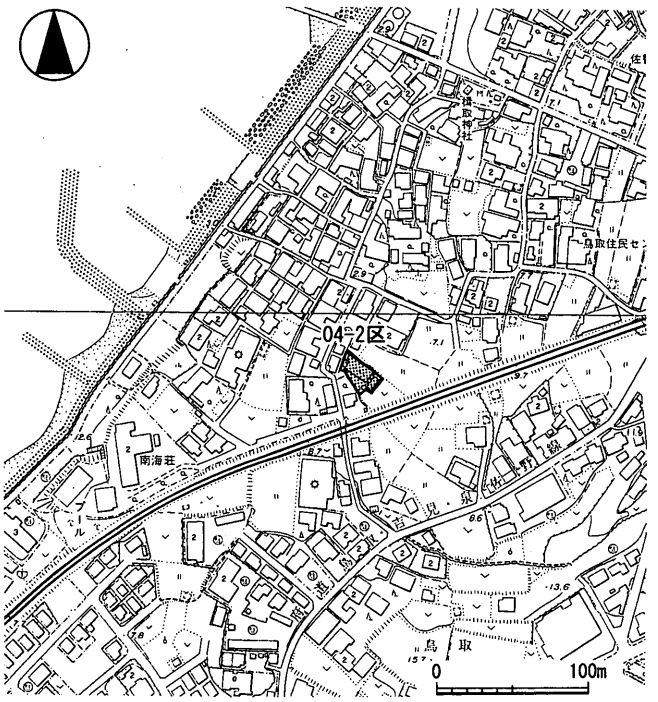
調査地は、西鳥取遺跡の北西部に位置する。

調査は調査区内に2.8m×1.5mのトレンチを設定し実施した。

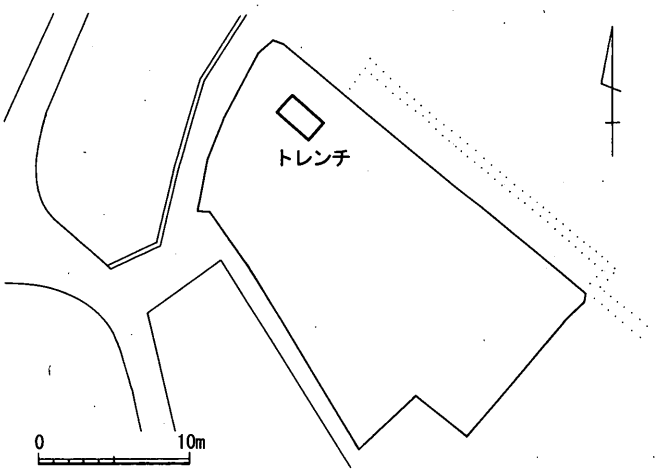
基本層序は第１層盛土、第２層灰色土、第３層濃茶灰色砂混粘質土、第４層淡黄灰色粘質土、第５層明黄茶灰色粘質土、第６層淡灰黄色粘土の地山である。

遺物は、第２層から陶器、土師質土器、第３層から須恵器、土師器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、製塩土器、第５層から須恵器、土師質土器、製塩土器が出土した。１～３は第３層から出土した須恵器で、１・２は杯蓋、３は杯身。４～６は第４層から出土した。４・５は須恵器杯蓋、６は土師器の甕である。

遺構は検出されなかった。



第15図　西鳥取遺跡調査区位置図



第16図　西鳥取遺跡04-2区　トレンチ位置図

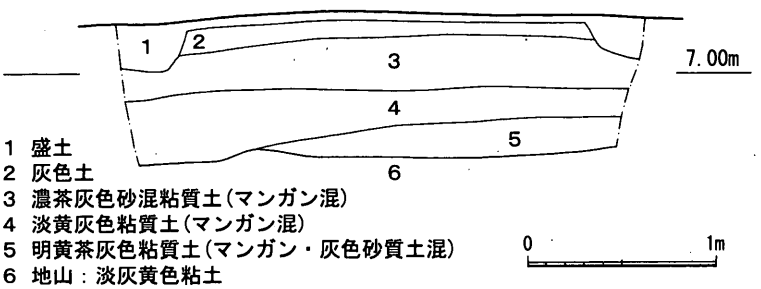
第５節　神光寺（蓮池）遺跡

（１）０４－１２区（第19～22図）

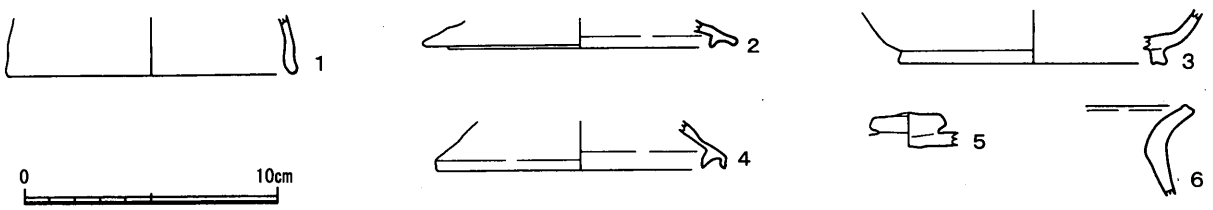
調査地は神光寺（蓮池）遺跡の南部に位置する。

調査は調査区内に3.5m×1.3mのトレンチを設定し実施した。

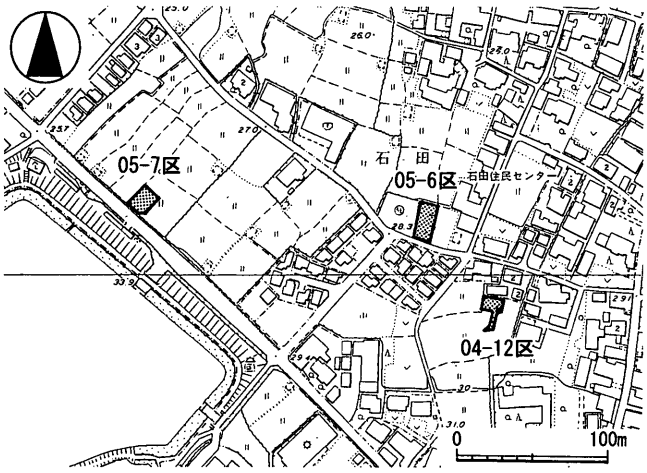
基本層序は盛土、耕作土を除いて、第３層灰褐色土、第４層淡灰黄色土、第５層淡黄灰色土、第６層淡茶灰色土、第７層淡灰白黄色土の地山である。



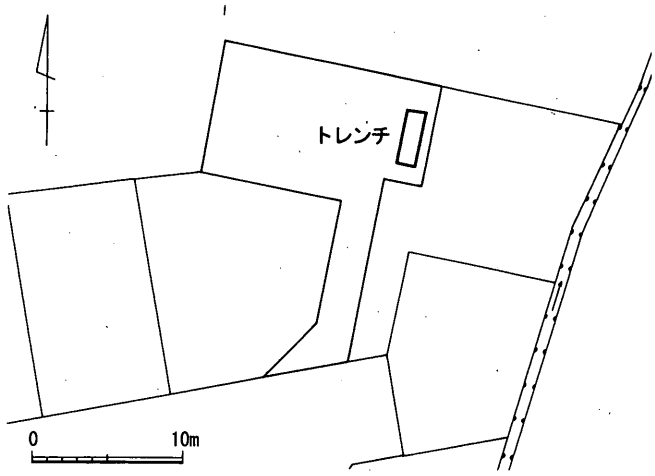
第17図　西鳥取遺跡04-2区　トレンチ東側断面図



第18図　西鳥取遺跡04-2区　出土遺物



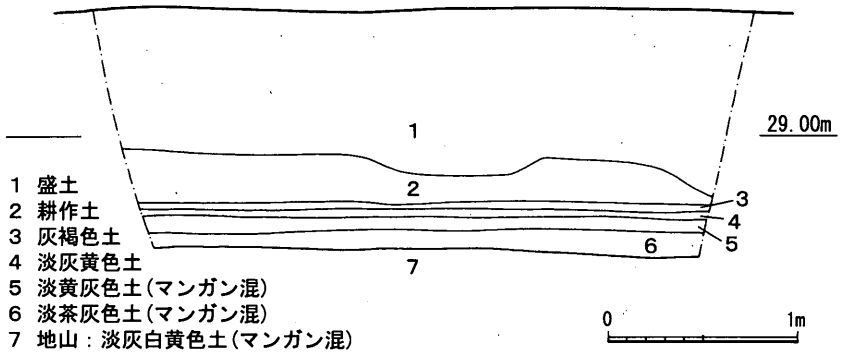
第19図　神光寺(蓮池)遺跡調査区位置図



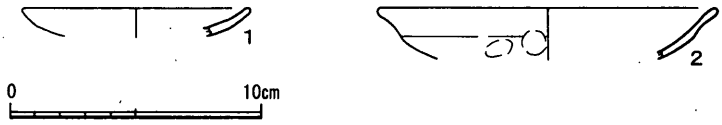
第20図　神光寺(蓮池)遺跡04-12区　トレンチ位置図

遺物は第３層から土師質土器、青磁、第４層から須恵器、土師質土器、瓦、第５層からサヌカイト、土師質土器、瓦器、第６層から土師質土器、瓦器、白土器が出土した。１は土師質小皿で第３層から、２は瓦器椀で第６層から出土した。

遺構は検出されなかった。



第21図　神光寺(蓮池)遺跡04-12区　トレンチ西側断面図



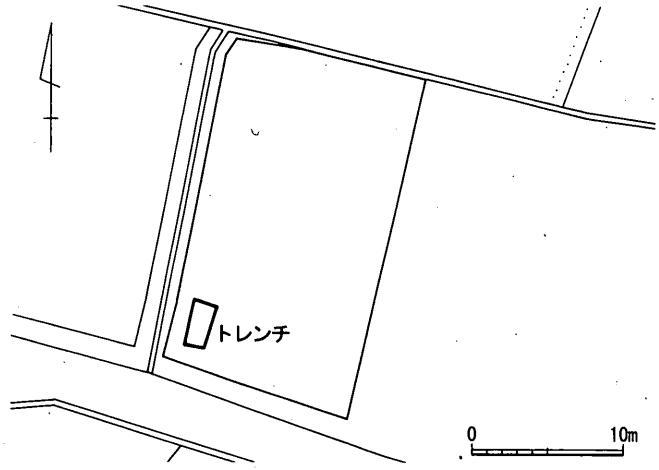
第22図　神光寺(蓮池)遺跡04-12区　出土遺物

（２）０５－６区（第19･23～25図）

調査地は神光寺(蓮池)遺跡の南部に位置する。

調査は調査区内に2.9m×1.6mのトレンチを設定し実施した。

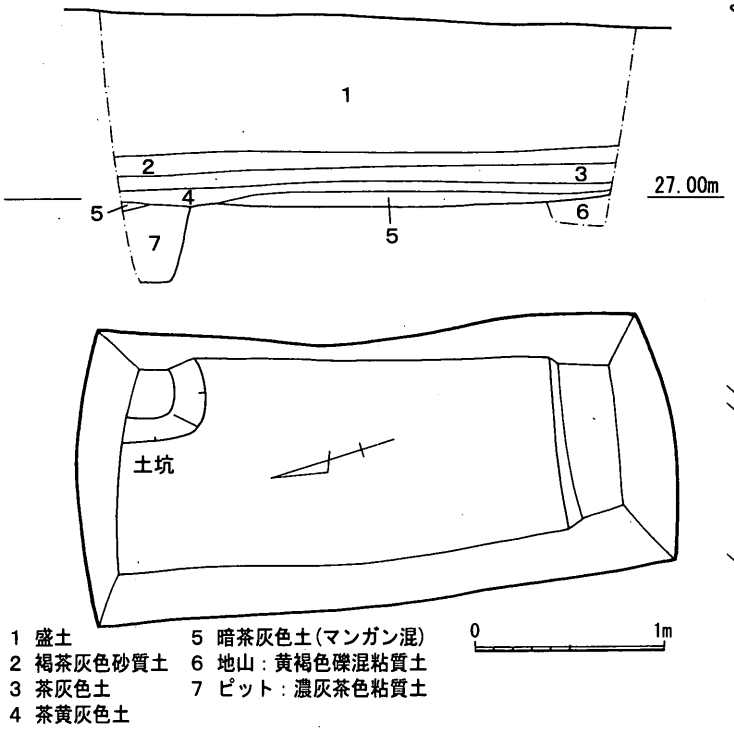
基本層序は第１層盛土、第２層褐茶灰色砂質土、第３層茶灰色土、第４層茶黄灰色土、第５層暗茶灰色土、第６層黄褐色礫混粘質土の地山である。



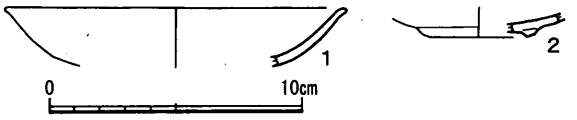
第23図　神光寺(蓮池)遺跡05-6区　トレンチ位置図

遺物は第２層から土師質土器、瓦、陶器、磁器、第３層から土師質土器、瓦器、第５層から土師質土器、瓦器が出土した。１は磁器皿で第２層から、２は瓦器椀で第５層から出土した。

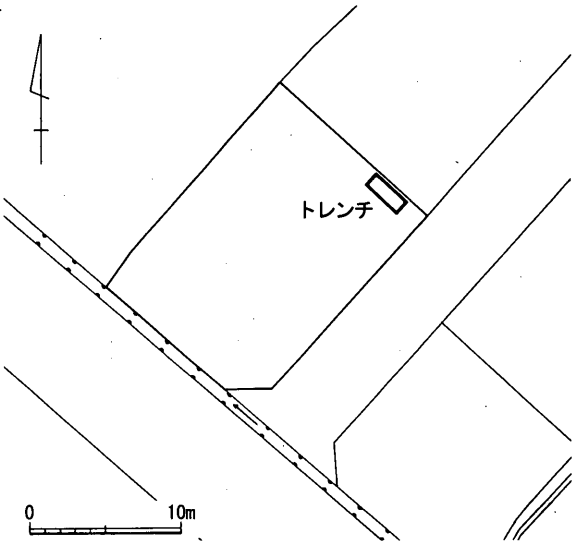
遺構はトレンチ北東角の地山面で土坑１を検出した。直径0.40m以上、深さ0.40m、埋土は濃灰茶色粘質土で、遺物は土師質土器が出土した。



第24図 神光寺(蓮池)遺跡05-6区 トレンチ平面図・断面図



第25図 神光寺(蓮池)遺跡05-6区 出土遺物



第26図 神光寺(蓮池)遺跡05-7区 トレンチ位置図

（３）０５－７区（第19・26・27図）

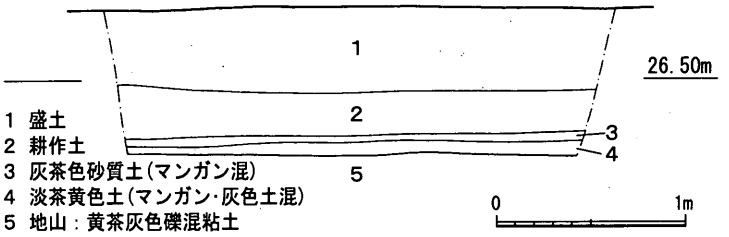
調査地は神光寺(蓮池)遺跡の南部に位置する。

調査は調査区内に2.7m×1.2mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は盛土、耕作土を除いて、第３層灰茶色砂質土、第４層淡茶黄色土、第５層黄茶灰色礫混粘土の地山である。

遺物は第３層から瓦器、土師質土器、磁器、第４層から土師質土器が出土した。

遺構は検出されなかった。



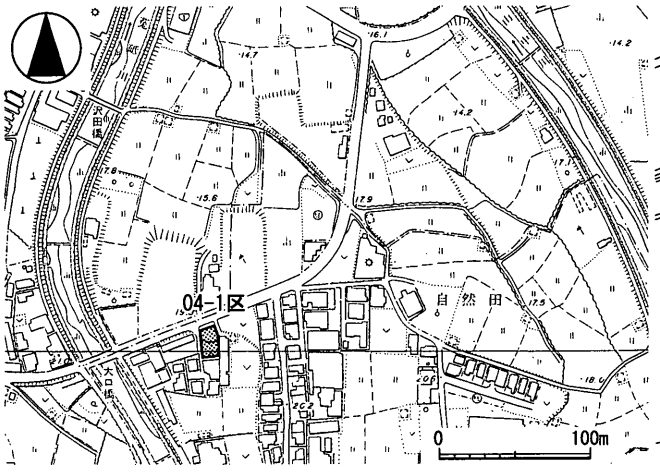
第27図 神光寺(蓮池)遺跡05-7区 トレンチ東側断面図

第６節　向出遺跡

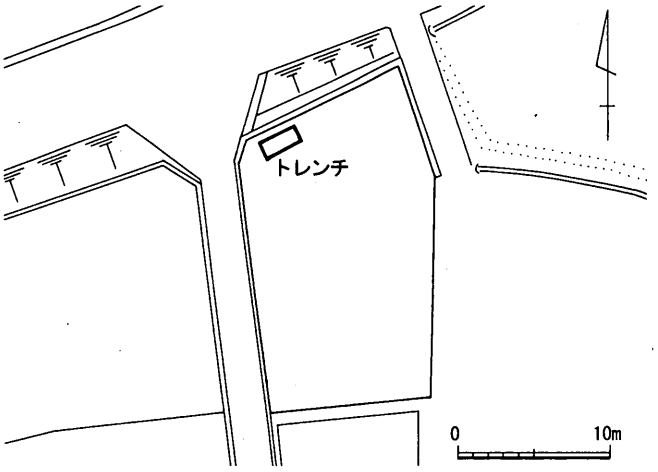
（１）０４－１区（第28～31図）

調査地は、向出遺跡の北部に位置する。

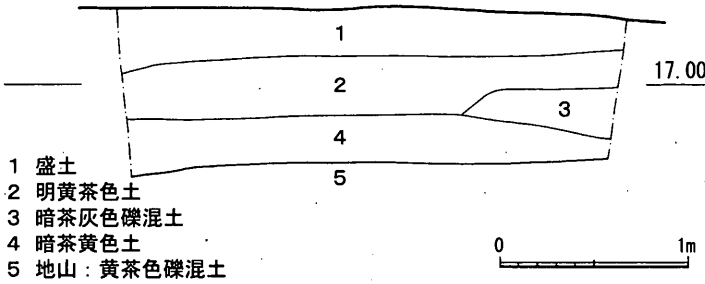
調査は調査区内に2.7m×1.1mのトレ



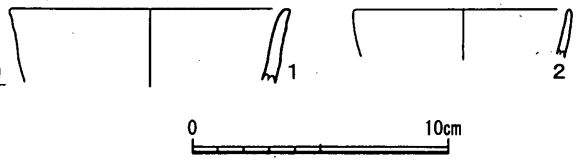
第28図 向出遺跡調査区位置図



第29図 向出遺跡04-1区 トレンチ位置図



第30図　向出遺跡04-1区　トレンチ南側断面図



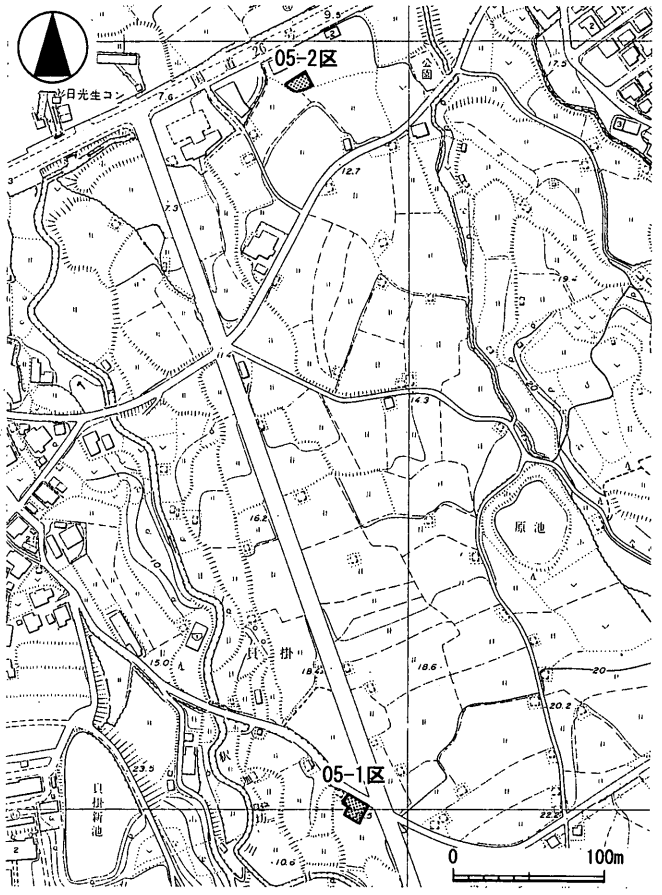
第31図　向出遺跡04-1区　出土遺物

ンチを設定し実施した。

基本層序は第１層盛土、第２層明黄茶色土、第３層暗茶灰色礫混土、第４層暗茶黄色土、第５層黄茶色礫混土の地山である。

遺物は第２層から須恵器、瓦器、土師質土器、陶器、磁器、瓦、第３層から須恵器、土師質土器、陶器、瓦が出土した。いずれも近世期の包含層である。第４層からは遺物が出土しなかったため、時代は不明である。１・２は陶器の椀である。１は第２層から、２は第３層から出土した。

遺構は検出されなかった。



第32図　貝掛遺跡調査区位置図

第７節　貝掛遺跡

（１）０５－１区（第32～35図）

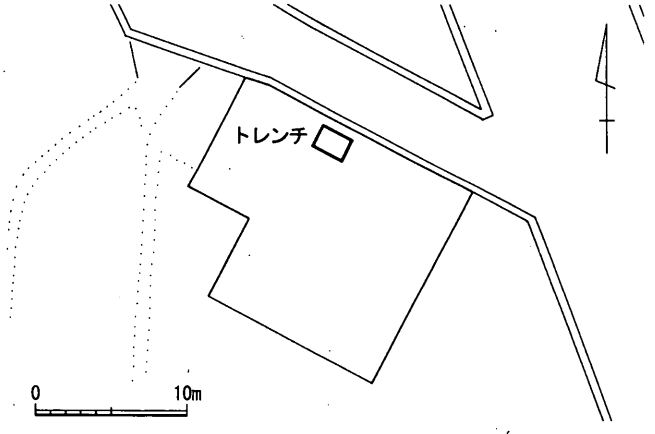
調査地は、貝掛遺跡の南部に位置する。

調査は調査区内に2.2m×1.5mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は第１層耕作土、第２層茶灰色砂質土、第３層淡黄灰色土、第４層橙褐色土、第５層淡黄褐色土の地山である。

遺物は第２層から土師質土器、土師質蛸壺、瓦質土器が出土した。１は瓦質土器の擂鉢である。

遺構は検出されなかった。

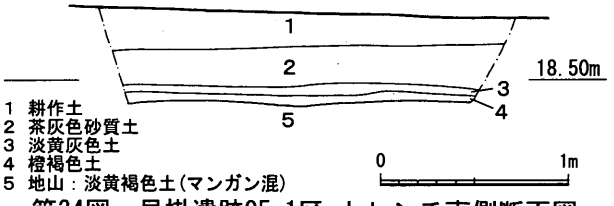


第33図　貝掛遺跡05-1区　トレンチ位置図

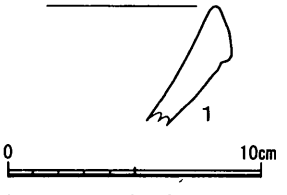
（２）０５－２区

（第32・36～38図）

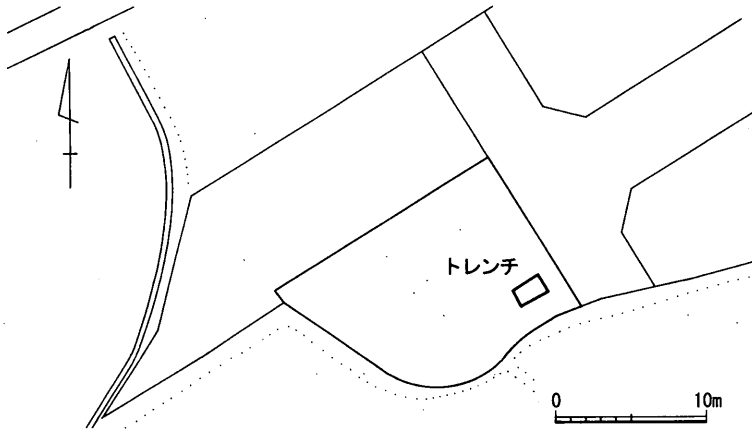
調査地は貝掛遺跡の北部にあたる。



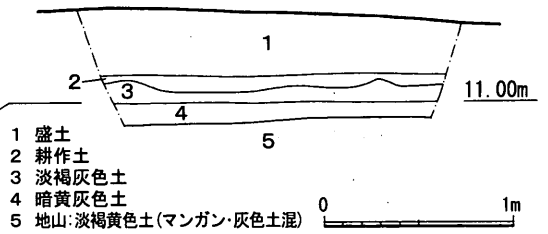
第34図　貝掛遺跡05-1区　トレンチ南側断面図



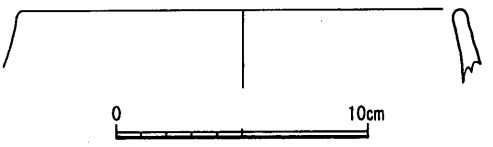
第35図　貝掛遺跡05-1区　出土遺物



第36図　貝掛遺跡05-2区　トレンチ位置図



第37図 貝掛遺跡05-2区　トレンチ北側断面図



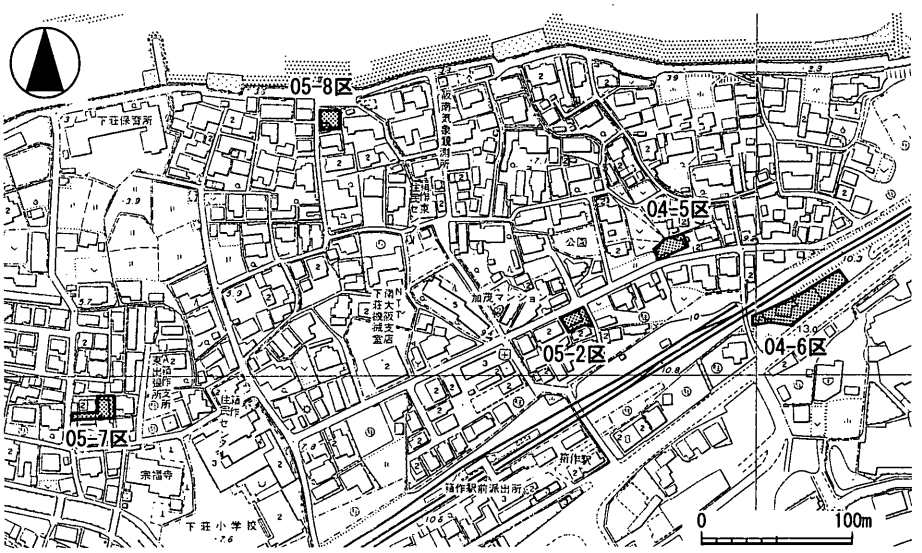
第38図　貝掛遺跡05-2区　出土遺物

調査は調査区内に2.0m×1.1mのトレンチを設定して実施した。調査面積は2.2㎡である。

基本層序は、第１層盛土、第２層耕作土、第３層淡褐灰色土、第４層暗黄灰色土、第５層マンガン粒を含む灰色土混じりの淡褐黄色土の地山である。

遺物は第３層からサヌカイト、須恵器、土師質土器、瓦器、第４層から土師質土器、瓦器、瓦質土器が出土した。１は瓦質土器の羽釜である。口縁部は内傾し、端部は丸くおさめる。第４層から出土した。

遺構は検出されなかった。



第39図　箱作今池遺跡調査区位置図

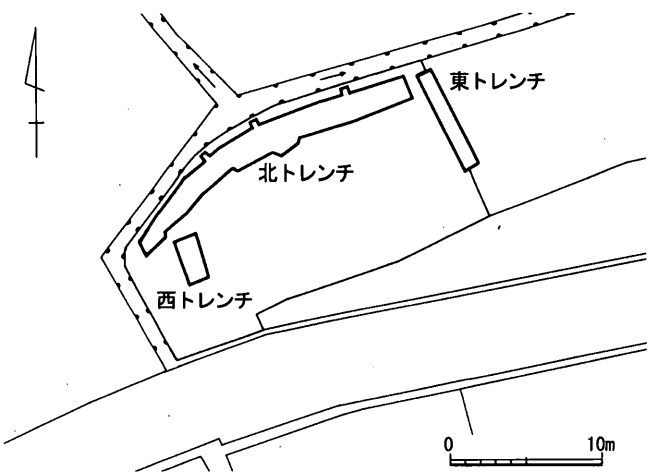
第８節　箱作今池遺跡

（１）０４－５区（第39～42図）

調査地は、箱作今池遺跡の北部に位置する。

調査は調査区内に東トレンチ7.0m×1.2m、北トレンチ20.0m×1.6m、西トレンチ3.0m×1.4mを設定して実施した。

基本層序は第１層盛土、第２層淡灰茶色土、第３層茶灰色土、第４層明茶黄色土、第５層明黄橙色粘土の地山である。



第40図　箱作今池遺跡04-5区　トレンチ位置図

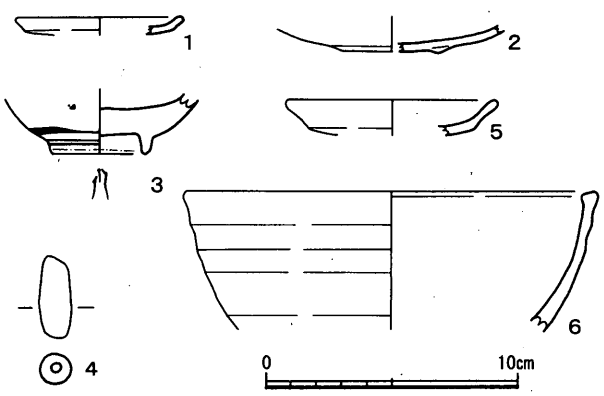
遺物は第２層から土師質土器、白土器、第３層から須恵器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、青磁、陶器、磁器、瓦など、第４層からサヌカイト、須恵器、土師器、瓦器、土師質土器などが出土した。１は土師質小皿、２は瓦器椀、３は波佐見焼の椀、４は土師質管状土錘である。１～３は第２層から、４は第４層から出土した。

遺構は北トレンチで土坑を１、溝を３、落ち込みを１検出した。

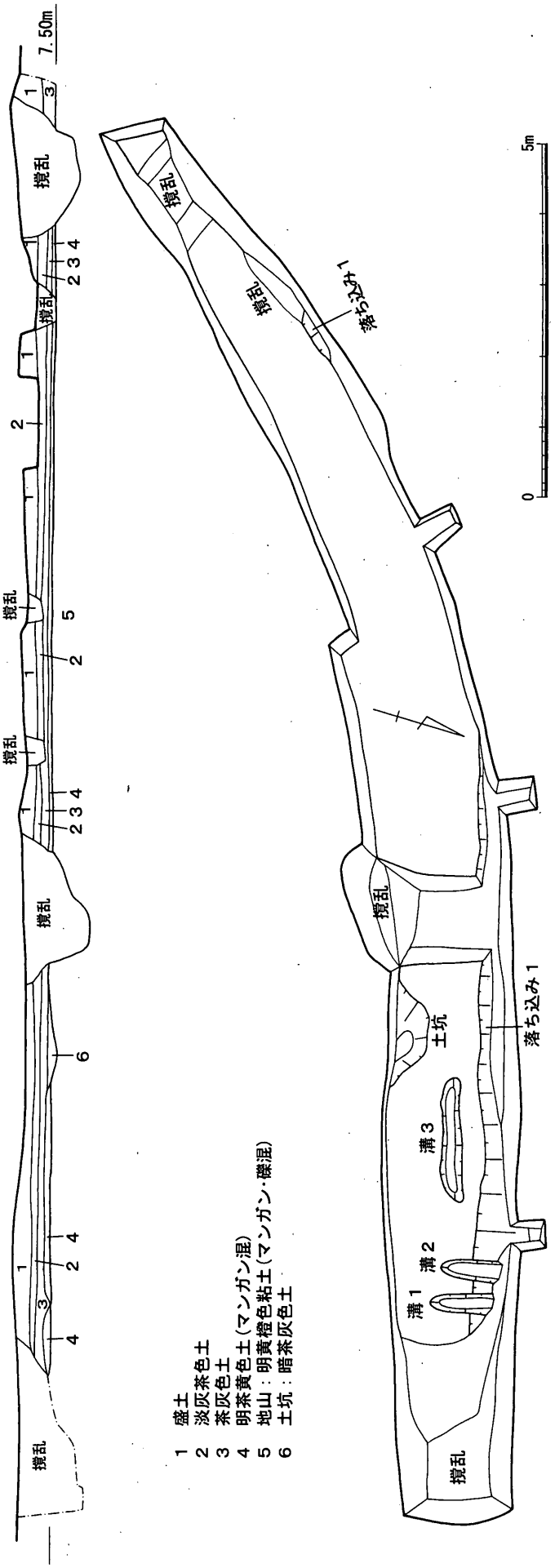
土坑１は第４層上面から切り込んでおり、東西1.54m、南北0.45m以上、深さ0.12mで、埋土は暗茶灰色土である。遺物は土師質土器が出土したが、小片のため図化できなかった。

溝を３検出したが、いずれも鋤溝と思われる。溝１は長さ0.8m以上、幅0.30m、深さ0.04m、溝２は長さ8.5m以上、幅0.30m、深さ0.08m、溝３は長さ17.8m、幅0.32m、深さ0.03mである。落ち込み埋没後に掘削され、埋土は全て土坑と同じ暗茶灰色土である。遺物は溝１から土師質土器、溝２から焼土、溝３から土師質土器が出土した。５は溝１から出土した土師質土器の小皿である。

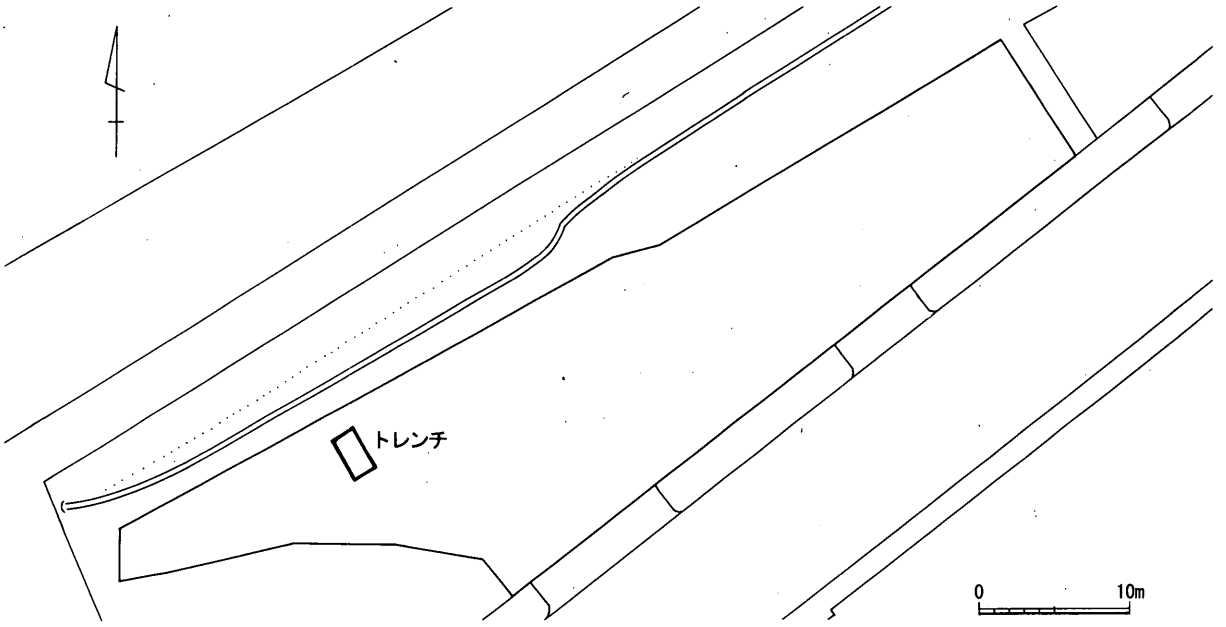
落ち込みは一部を検出したのみあるが、現在の地形にほぼ一致している。埋土は



第42図　箱作今池遺跡04-5区 出土遺物



第41図 箱作今池遺跡04-5区 北トレンチ平面図・断面図



第43図　箱作今池遺跡04-6区　トレンチ位置図

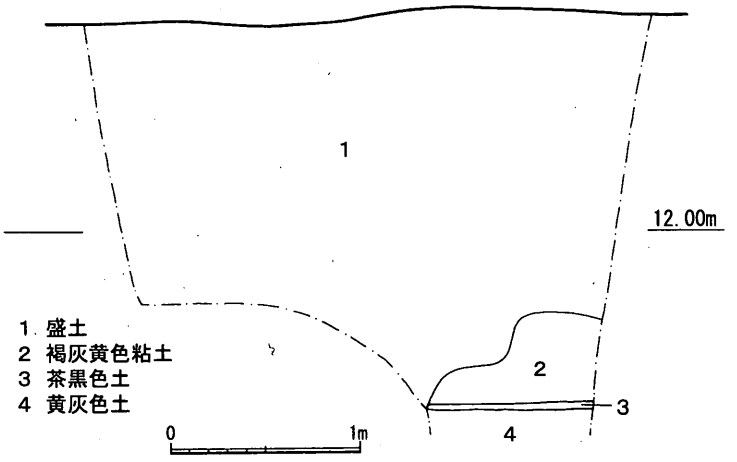
第３層と同じである。遺物は瓦器、陶器、土師質真蛸壺が出土した。６は陶器の鉢である。

（２）０４－６区（第39・43・44図）

調査地は、箱作今池遺跡の北部に位置する。

調査は調査区内に3.0m×2.0mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は第１層盛土、第２層褐灰黄色粘土、第３層茶黒色土、第４層黄灰色土である。遺物・遺構とも検出されなかった。



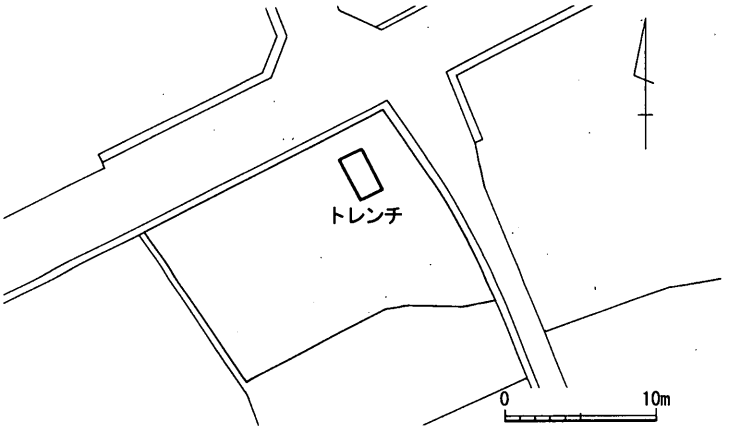
第44図　箱作今池遺跡04-6区　トレンチ東側断面図

（３）０５－２区（第39・45～47図）

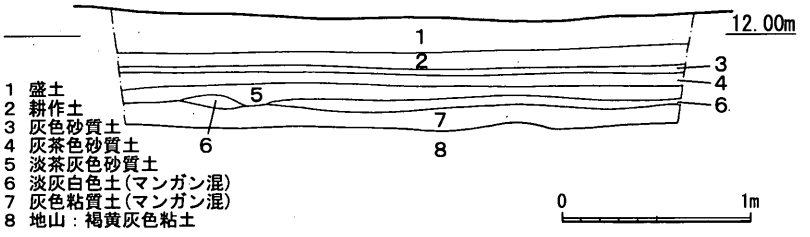
調査地は、箱作今池遺跡の北部に位置する。

調査は調査区内に3.1m×1.7mのトレンチを設定し実施した。

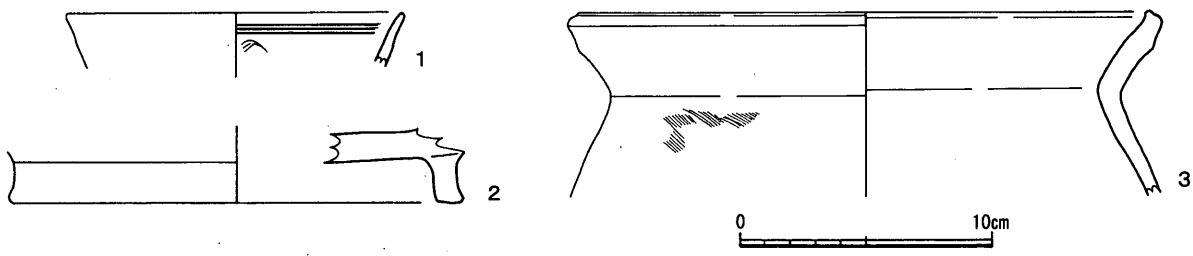
基本層序は盛土、耕作土を除いて第３層灰色砂質土、第４層灰茶色砂質土、第５層淡茶灰色砂質土、第６層淡灰白色土、第



第45図　箱作今池遺跡05-2区　トレンチ位置図



第46図　箱作今池遺跡05-2区　トレンチ西側断面図



第47図　箱作今池遺跡05-2区 出土遺物

７層灰色粘質土、第８層褐黄灰色粘土の地山である。

遺物は第４層から瓦器、土師質蛸壺、製塩土器、第５・６層から須恵器、土師器、製塩土器、土師質蛸壺、片岩、第７層から須恵器、土師器、黒色土器、製塩土器が出土した。１は青磁椀、２は須恵器杯身、３は土師器の甕である。１・２は第５・６層から、３は第７層から出土した。

遺構は検出されなかった。

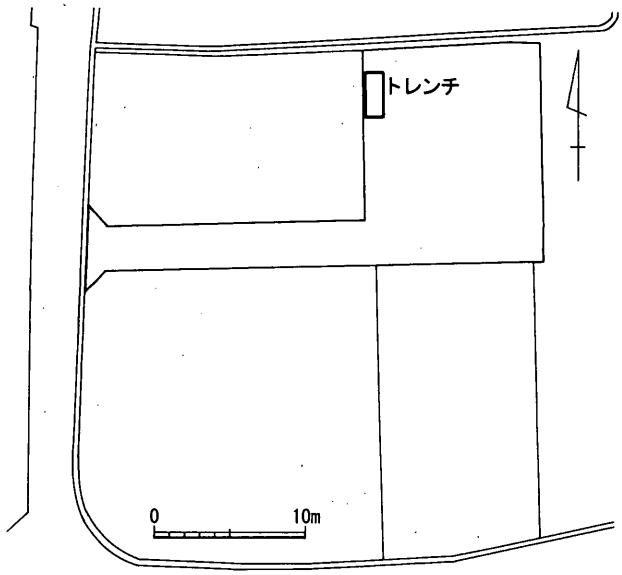
（４）０５－７区（第39・48～50図）

調査地は箱作今池遺跡の北西部に位置し、04－２区の東隣、04－３区の北隣にあたる。

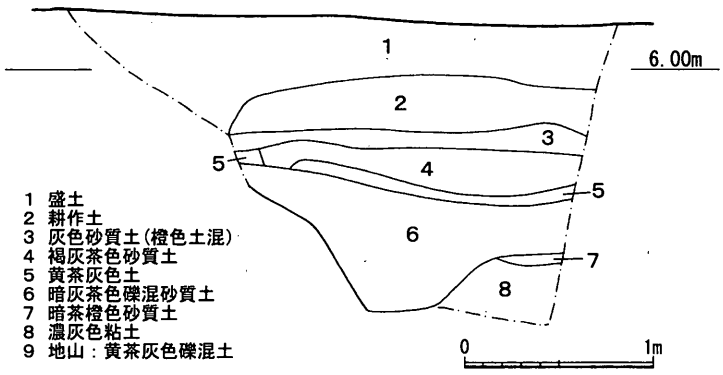
調査は調査区内に2.9m×1.1mのトレンチを設定して実施した。調査面積は3.19㎡である。

基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層橙色土混じりの灰色砂質土、第４層褐灰茶色砂質土、第５層黄茶灰色土、第６層暗灰茶色礫混砂質土、第７層暗茶橙色砂質土、第８層濃灰色粘土、第９層黄茶灰色礫混土の地山である。

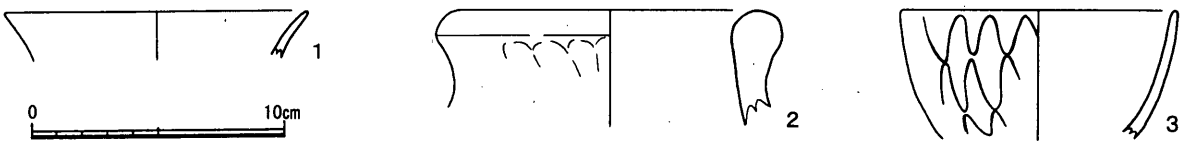
遺物は第３層からサヌカイト、須恵器、土師質土器、磁器、第４層から須恵器、土師質土器、第６層から磁器、土師質蛸壺、スサ入り焼土塊、第７層から土師質土器が出土した。１は須恵器坏身の口縁部である。細片だが、器形から奈良時代のものである。



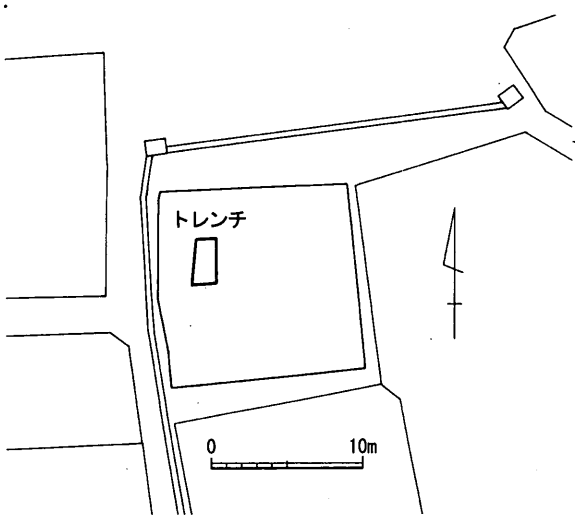
第48図　箱作今池遺跡05-7区 トレンチ位置図



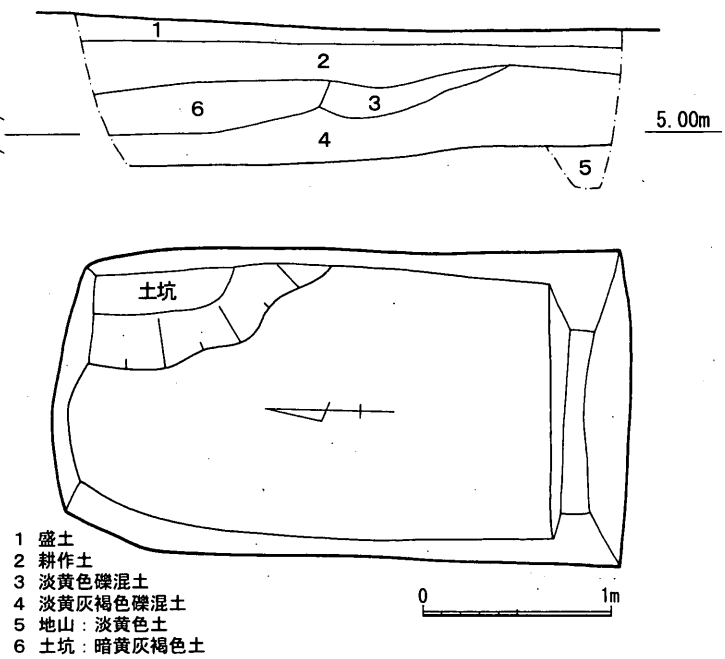
第49図　箱作今池遺跡05-7区 トレンチ西側断面図



第50図　箱作今池遺跡05-7区 出土遺物



第51図　箱作今池遺跡05-8区　トレンチ位置図



第52図　箱作今池遺跡05-8区　トレンチ平面図・断面図

第４層から出土した。２は土師質の真蛸壺である。３は磁器染付椀で、外面に一重網目文を施す。肥前産である。２・３は第６層より出土した。

明確な遺構は確認できなかったが、トレンチ南側で北側へ落ち込む地山を検出した。第６層より肥前磁器が出土していることから、その埋没時期は近世期以降である。

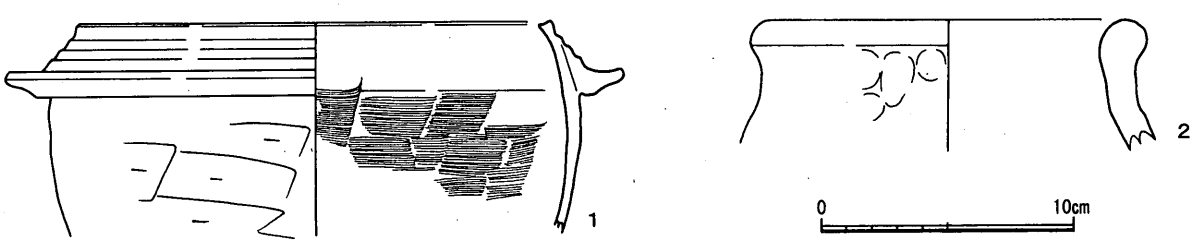
（５）０５－８区（第39・51～53図）

調査地は箱作今池遺跡の北西部に位置し、95－６区の北側にあたる。調査は調査区内に2.9m×1.3mのトレンチを設定して実施した。調査面積は3.77㎡である。

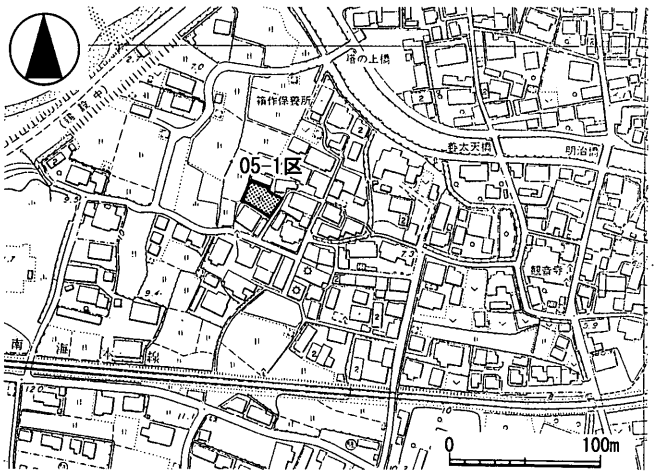
基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層淡黄色礫混土、第４層淡黄灰褐色礫混土、第５層淡黄色土の地山である。

遺物は第４層から土師質土器、瓦質土器、染付磁器が出土した。１は瓦質土器の羽釜である。内傾する口縁部に３段の沈線を施す。外面の鍔より下位には煤が付着する。和泉型Ｄ類で、15世紀代の所産である。２は土師質の真蛸壺である。いずれも第４層より出土した。

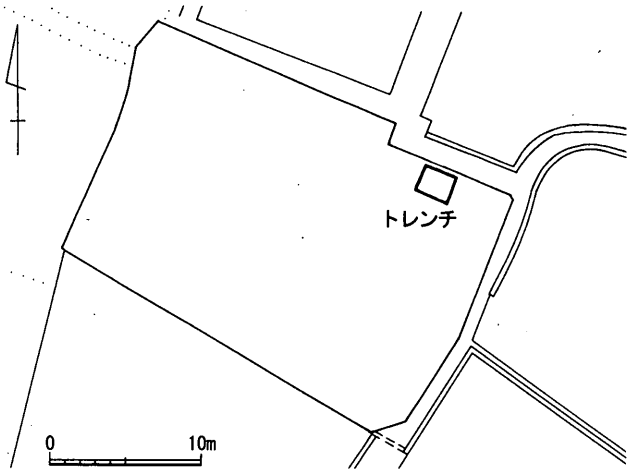
遺構は第３層上面で土坑を１検出した。平面は不整形で、長さ1.10m以上、深さ約0.30mを測る。埋土は暗黄灰褐色土で、遺物は土師質土器が出土した。近世磁器を含む第４層を掘り込むことから、近世期以降の遺構である。



第53図　箱作今池遺跡05-8区　出土遺物



第54図　田山東遺跡調査区位置図



第55図　田山東遺跡05-1区　トレンチ位置図

第１０節　田山東遺跡

（１）０５－１区（第54～57図）

調査地は田山東遺跡の北部にあたり、97－１区の北西、98－１区の東に隣接する。

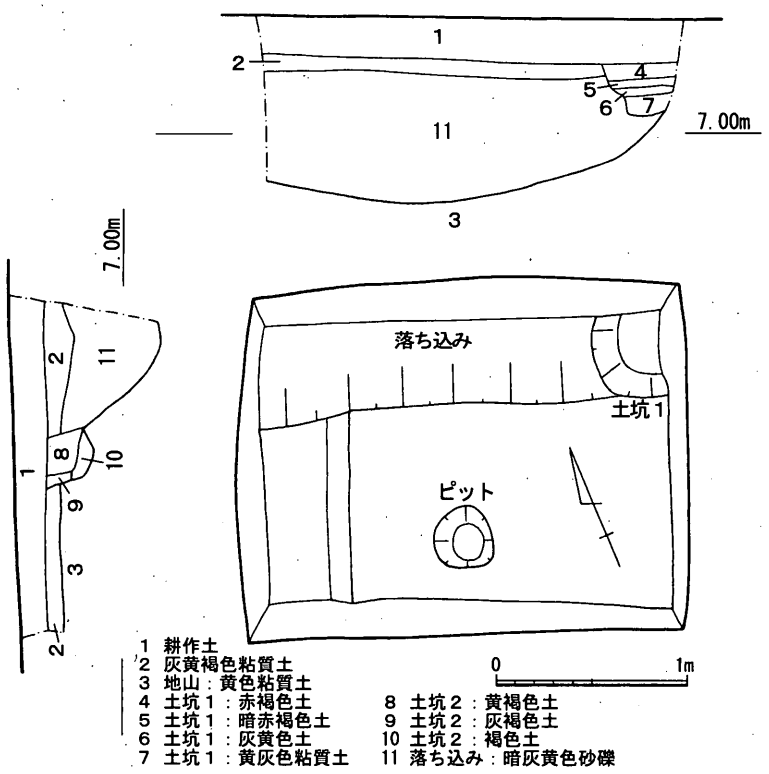
調査は調査区内に2.3m×1.8mのトレンチを設定して実施した。調査面積は4.14㎡である。

基本層序は第１層耕作土、第２層灰黄褐色粘質土、第３層黄色粘質土の地山である。

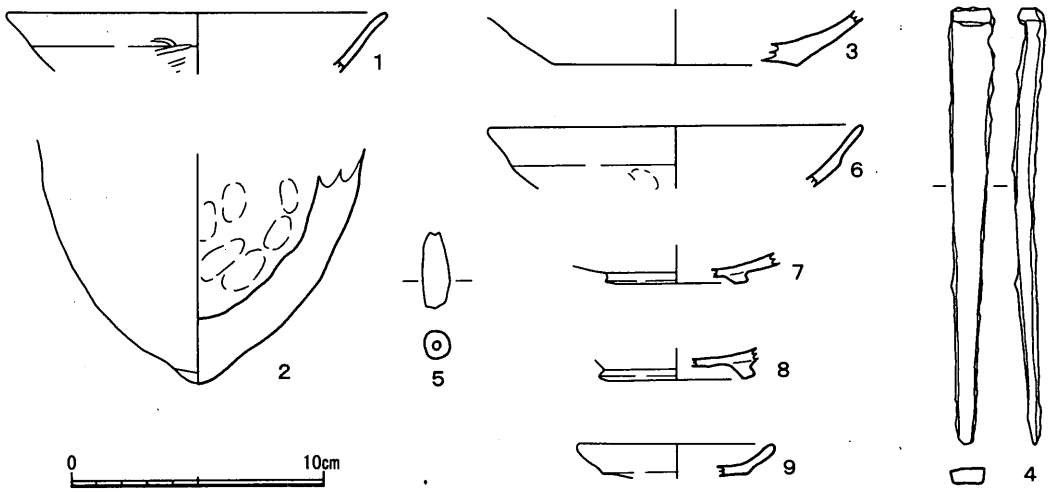
遺物は第２層から土師質土器、瓦器、瓦質土器、陶器、瓦、土師質蛸壺、焼土が出土した。１は瓦器椀、２は土師質の真蛸壺である。いずれも第２層から出土した。

遺構は土坑を２、ピット、落ち込みを検出した。

土坑１はトレンチ北東隅の第２層上面で検出した。直径0.40m以上、深さ0.28mを測る。埋土は上層から赤褐色土、暗赤褐色土、灰黄色土、黄灰色粘質土で、赤褐色土、暗赤褐色土は焼土や炭を含む焼土層である。遺物は赤褐色土から土師質土器、瓦器、陶器、瓦、鉄製品（鉄釘など）、暗赤褐色土から土師質土器、瓦器、灰黄色土から土師質土器、瓦器、土師質管状土錘が出土した。３は陶器の急須の底部と思われる。内面に薄く施釉し、外面は回転ヘラケズリ。外面には煤が付着する。伊賀信楽系のものと思われる。４は鉄釘である。断面長方形を呈し、頭部は一端を折り曲げて作り出す。５は土師質管状土錘である。３・４は赤褐色土、５は灰黄色土より出土した。



第56図　田山東遺跡05-1区　トレンチ平面図・断面図



第57図　田山東遺跡05-1区 出土遺物

土坑２はトレンチ西壁面で確認した。第２層を掘り込み、規模は不明である。遺物は出土しなかった。

ピットは地山面で検出した。直径0.30mの円形を呈し、深さ0.15mを測る。埋土は黒褐色粘質土で、遺物は土師質土器、瓦器が出土した。６～８は瓦器椀である。

落ち込みはトレンチ北側の地山面で検出した。深さ0.65m以上である。埋土は暗灰黄色砂礫で、遺物は土師質土器、瓦器、陶器、磁器、土錘、鉄製品、ガラス製品が出土した。９は土師質土器の小皿である。

以上の遺構はガラス製品が出土したことから、時代は近代以降である。

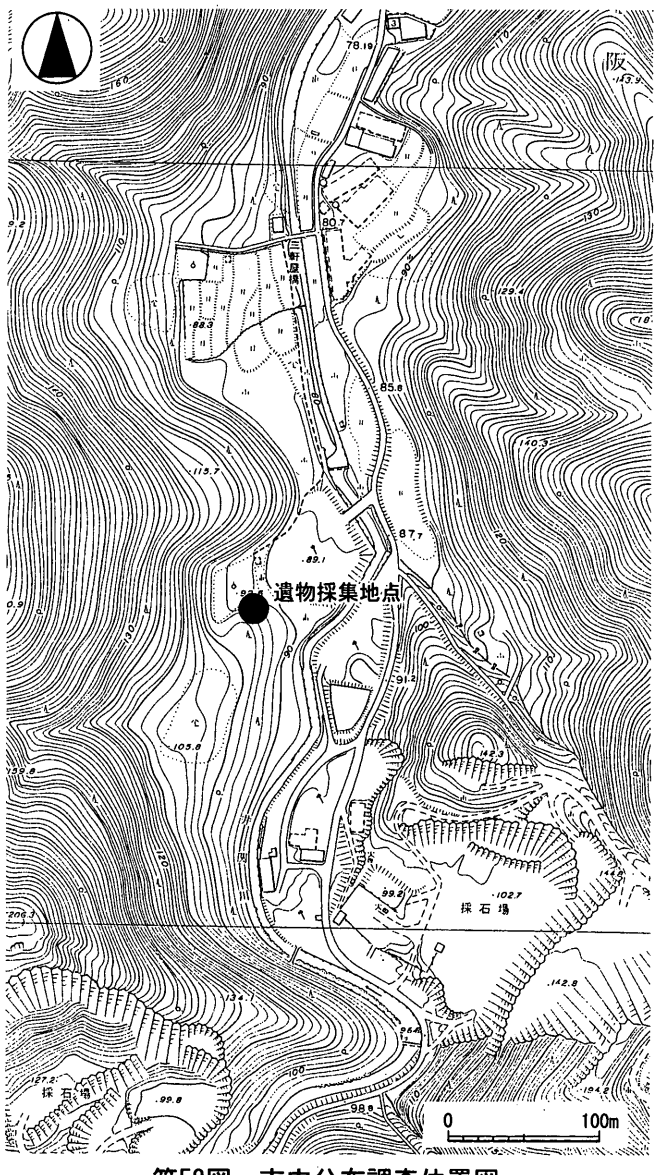
第２章　市内分布調査の成果

阪南市域では、箱作地区、桑畑地区、山中渓地区の山間部に和泉砂岩の石切場跡が確認されている。このうち、箱作地区は茶屋川水系の茶屋川及び飯ノ峯川、桑畑地区は男里川水系の井関川、山中渓地区は同水系山中川の上流域に所在している。この男里川は、河口付近で阪南市と隣接する泉南市との境界をなしている。上流の水系として阪南市域では、上述の井関川と山中川の他、菟砥川がある。近世期の史料には、現在の菟砥川上流域にあたると思われる地域からも石材の切り出しが行われていたことが窺えるが、これまで、菟砥川流域では、石切場跡の存在は知られていない。

このため、新たな石切場跡の存在を確認すべく、今回この菟砥川流域の山中を中心に、井関川、山中川流域において分布調査を実施した。

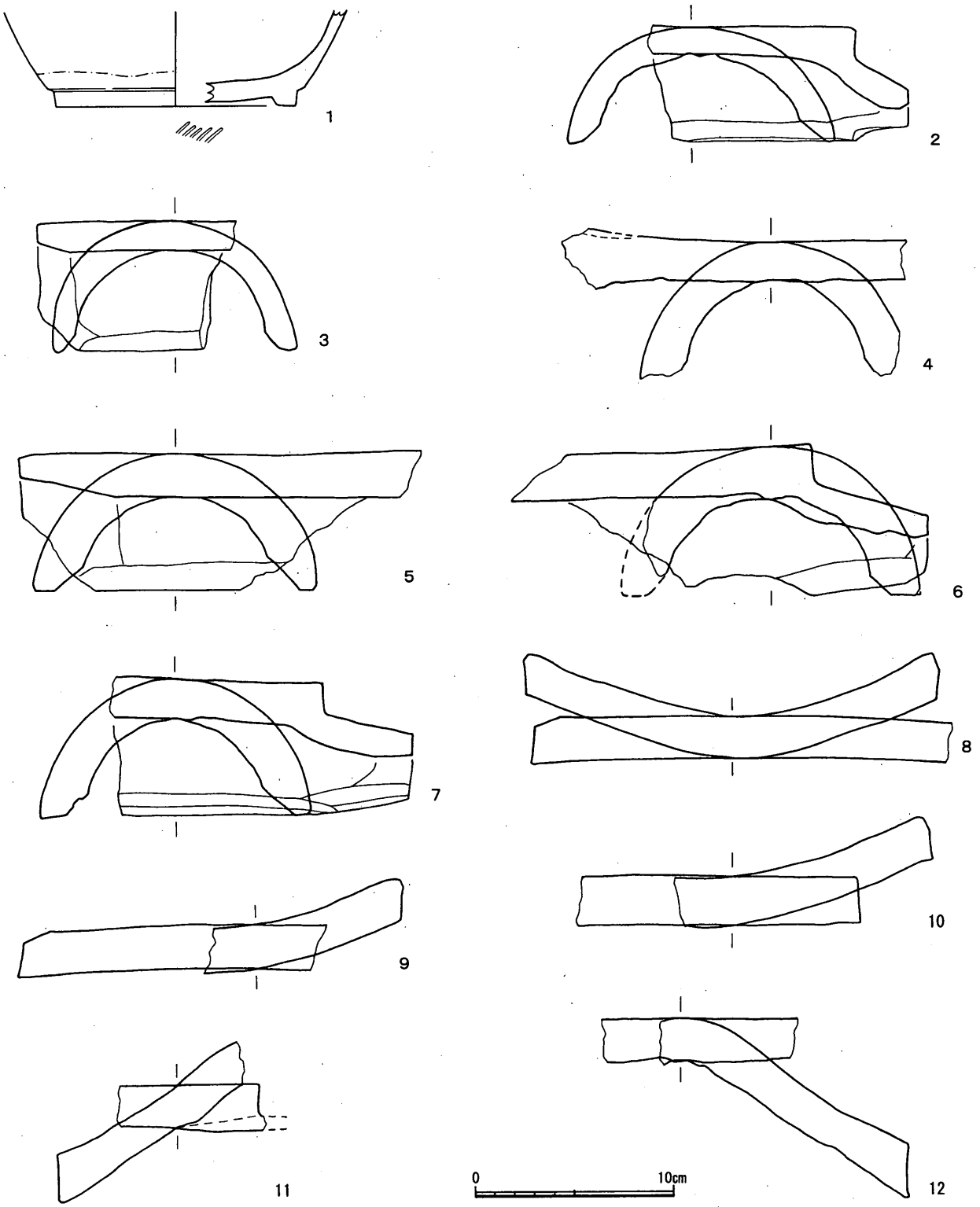
その結果、いずれの地域においても新たな石切場の存在は確認できなかった。しかし、井関川流域にある現在の桑畑の集落をさらに遡った地点で、中世期の瓦が採取された。この付近には、「八王子」という字名があり、以前から式内社の存在が伝承され、近世期の祠などが散在していることは知られていたが、中世期まで遡る遺物が確認されたのは、今回がはじめてのことである。この付近において、中世期の寺院などが存在する可能性を示すこととなった。今後、再度付近の詳細な分布調査を実施する必要があると思われる。

一方、上述のように、石切場については、新たな存在を確認するまでにはいたらなかった。確認できなかった要因は、いずれの流域においても、調査を行った地域が比較的海岸部に近すぎたのではないかと考えられる。今後の課題としては、さらに河川の上流域にまで範囲を拡げて調査を行う必要があると思われる。



第58図　市内分布調査位置図

遺物は陶器、瓦などが採取された。図示できたものは以下のとおりである。１は近世期の陶器の甕もしくは壺と思われる。２～12は瓦である。２・３は近世期の丸瓦で、凸面が縦方向のヘラミガキ、凹面は布目痕が残り、縦方向のヘラケズリがある。４は軒丸瓦で凸面が縦方向のヘラミガキ、凹面は布目痕が残る。瓦当部分は欠損している。５～７は丸瓦で、凸面が縦方向のヘラケズリで僅かに縄目痕が見られ、凹面は布目痕がある。８～10は平瓦で、凸凹面とも離れ砂を施している。11・12は雁振瓦と思われ、凸面は布目痕が残り、凹面は離れ砂が付着する。４～12は中世期のものである。



第59図　市内分布調査　採取遺物

第３章　まとめ

以上のように、本年度は発掘調査として９遺跡１７地点での調査報告と分布調査の報告を行った。以下にこの発掘調査についての成果の一部を記して、まとめにかえたい。

発掘調査は調査面積2.0～30.0㎡程度のいずれも小規模なものであったが、尾崎清水遺跡05－３区において、わずか約10㎡の調査ながら、古墳時代の竪穴住居跡を確認したことは、成果のひとつとしてあげられよう。これまで、この尾崎清水遺跡と隣接の馬川北遺跡では、当該期の土器や溝、多くの自然流路等は確認されていたが、住居跡の検出は初めてのことであった。

これらの遺跡はいずれも、男里川河口近くの左岸に位置し、既往の調査では、縦横に流路が検出されており、縄文時代晩期から奈良時代頃までは、低湿地であったと想定されていた。今回の調査により、調査区付近の地盤が６世紀の段階では、一時的にしても、少しは安定していた可能性が示されることになった。当時の状況を一般的に勘案すると、住居の存在は１棟だけとは考えがたく、付近におけるこれ以外の住居跡の存在や集落の存在も想定される。これらについては、今後の調査に委ねることとしたい。

また、馬川北遺跡のすぐ南の馬川遺跡は、男里川左岸の段丘上と段丘下に拡がる遺跡で、段丘下の様相は上記の２遺跡と類似している。この段丘直下の地点において、同じ古墳時代の竪穴式住居跡１棟が2004年度に行なわれた既往の調査で確認されている。この住居跡は、尾崎清水遺跡05－３区から約250m南に位置し、住居跡の年代は今回よりも若干古い６世紀初頭頃のものと思われる。

これら２遺跡で確認された住居跡の時期差のうちに、下流の尾崎清水遺跡付近の土壌がより安定し、これに伴い集落が移動又は拡大してきたとこれだけの調査成果で考えるのは早計であろうか。

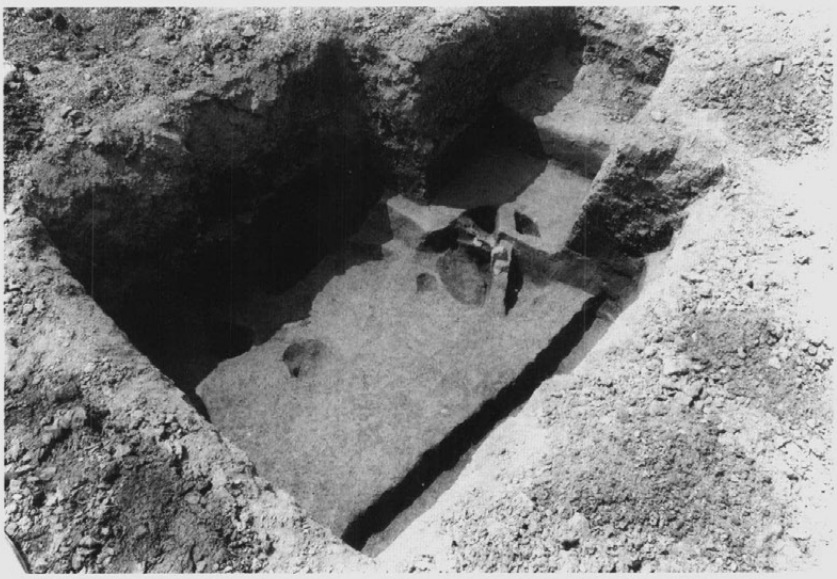
報告書抄録

ふりがな	はんなんしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいよう
書名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要　XXI
副書名	
巻次	
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告
シリーズ番号	３８
編著者名	三好義三・田中早苗・上野　仁・横澤　慈
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課
所在地	〒599-0292　大阪府阪南市尾崎町３５－１　TEL 0724-71-5678
発行年月日	2006年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村番号	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
おざきしみず 尾崎清水	おざきちょう 尾崎町	27232	68	34° 21′ 38″	135° 14′ 51″	050627~0628	3.3	住宅
おざきしみず 尾崎清水	しもいで 下出	27232	68	34° 21′ 08″	135° 14′ 54″	050719~0722	9.8	住宅
おざきかいがん 尾崎海岸	おざきちょう 尾崎町	27232	65	34° 21′ 77″	135° 14′ 60″	050922~0926	3.4	住宅
とっとりきた 鳥取北	しんまち 新町	27232	54	34° 21′ 10″	135° 14′ 21″	050113~0114	3.2	住宅
にしとっとり 西鳥取	とっとり 鳥取	27232	56	34° 20′ 50″	135° 13′ 53″	050324~0331	4.2	住宅
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	いしだ 石田	27232	20	34° 20′ 35″	135° 14′ 57″	050315~0316	4.5	住宅
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	いしだ 石田	27232	20	34° 20′ 37″	135° 14′ 54″	050629~0630	4.6	住宅
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	いしだ 石田	27232	20	34° 20′ 31″	135° 14′ 52″	050901~0902	3.2	住宅
むかいで 向出	じねんだ 自然田	27232	43	34° 20′ 91″	135° 15′ 24″	050203~0204	3.0	住宅
かいかけ 貝掛	かいかけ 貝掛	27232	19	34° 20′ 27″	135° 13′ 27″	050620~0621	3.3	住宅
かいかけ 貝掛	かいかけ 貝掛	27232	19	34° 20′ 27″	135° 13′ 27″	051005~1006	2.2	住宅
はこつくりいまいけ 箱作今池	はこつくり 箱作	27232	24	34° 20′ 21″	135° 13′ 0″	050128~0525	45.0	住宅
はこつくりいまいけ 箱作今池	はこつくり 箱作	27232	24	34° 20′ 11″	135° 12′ 44″	050217~0218	6.0	店舗付住宅
はこつくりいまいけ 箱作今池	はこつくり 箱作	27232	24	34° 20′ 22″	135° 13′ 0″	050517~0518	5.3	住宅
はこつくりいまいけ 箱作今池	はこつくり 箱作	27232	24	34° 20′ 29″	135° 12′ 35″	051130~1201	3.2	住宅
はこつくりいまいけ 箱作今池	はこつくり 箱作	27232	24	34° 20′ 36″	135° 12′ 41″	051214~1215	3.8	住宅
たやまひがし 田山東	はこつくり 箱作	27232	58	34° 20′ 11″	135° 12′ 44″	050406~0407	4.1	住宅
くわばたちく 桑畑地区	くわばた 桑畑	27232		34° 19′ 14″	135° 14′ 22″	040519~050222		分布調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
尾崎清水（おざきしみず）	散布地	縄文時代～近世		陶器・磁器・瓦・土師質管状土錘	
尾崎清水（おざきしみず）	散布地 住居跡	縄文時代～近世	竪穴住居跡・壁溝 カマド・溝・ピット	サヌカイト・石器・縄文土器 土師器・須恵器・土師質土器 瓦器・白土器・土師質有孔土錘 土師質管状土錘・磁器・瓦	
尾崎海岸（おざきかいがん）	散布地	弥生時代～近世	土坑	弥生土器・土師質土器・製塩土器・陶器・磁器・瓦・鉄釘・石製品	
鳥取北（とっとりきた）	散布地	中世～近世		土師器・土師質土器・瓦器・土師質蛸壺	
西鳥取（にしとっとり）	散布地	中世～近世		土師器・須恵器・土師質土器 製塩土器・瓦器・瓦質土器・陶器	
神光寺（蓮池）（じんこうじはすいけ）	散布地	中世～近世		サヌカイト・土師器・須恵器 土師質土器・瓦器・白土器・青磁・瓦	
神光寺（蓮池）（じんこうじはすいけ）	散布地	中世～近世	土坑	土師器・瓦器・陶器・磁器・瓦	
神光寺（蓮池）（じんこうじはすいけ）	散布地	中世		土師質土器・瓦器・磁器	
向出（むかいで）	散布地	不明		土師器・須恵器・土師質土器・瓦器・土師質炮烙・陶器・磁器・瓦	
貝掛（かいかけ）	散布地	中世～近世		土師質土器・瓦質土器・土師質蛸壺	
貝掛（かいかけ）	散布地	古墳時代～中世		サヌカイト・須恵器・土師質土器・瓦器・瓦質土器	
箱作今池（はこつくりいまいけ）	散布地	中世～近世	溝・土坑・落ち込み	サヌカイト・土師器・須恵器 土師質土器・瓦器・白土器・瓦質土器・土師質管状土錘　土師質真蛸壺・青磁・陶器・磁器・瓦	
箱作今池（はこつくりいまいけ）	散布地	不明			
箱作今池（はこつくりいまいけ）	散布地	中世～近世		土師器・須恵器・製塩土器・瓦器・黒色土器・土師質蛸壺・青磁・片岩	
箱作今池（はこつくりいまいけ）	散布地	近世		サヌカイト・須恵器・土師質土器・土師質蛸壺・陶器・磁器 スサ入り焼土塊	
箱作今池（はこつくりいまいけ）	散布地	中世～近世	土坑	土師質土器・瓦器・瓦質土器 染付磁器・瓦	
田山東（たやまひがし）	散布地	中世～近世	土坑・落ち込み・ピット	土師器・土師質土器・瓦器・瓦質土器・土師質管状土錘・土師質真蛸壺・陶器・磁器・瓦・鉄製品・ガラス製品・焼土	
桑畑地区（くわばたちく）	寺院跡	中世～近世		陶器・瓦	分布調査

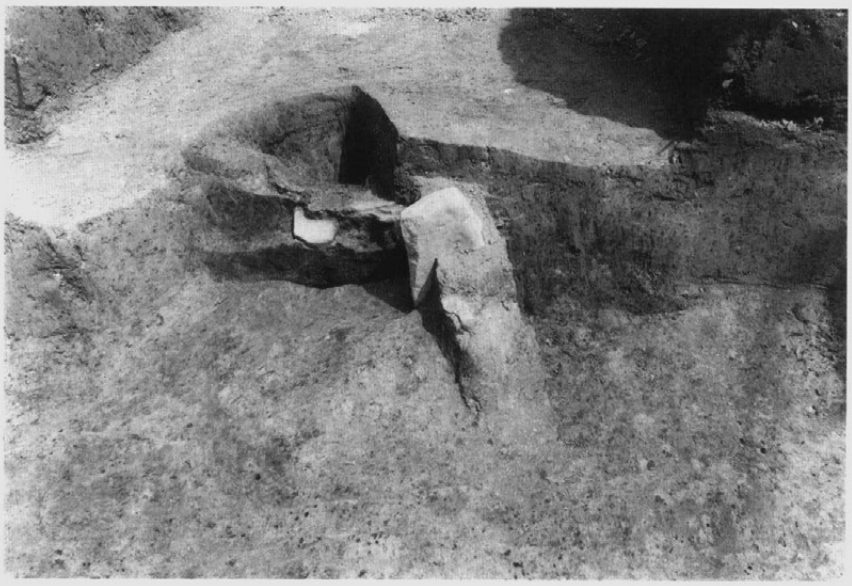
尾崎清水遺跡05-2区　トレンチ全景（東より）



尾崎清水遺跡05-3区　トレンチ全景（南より）

尾崎清水遺跡05-3区　カマド内遺物出土状況（西より）

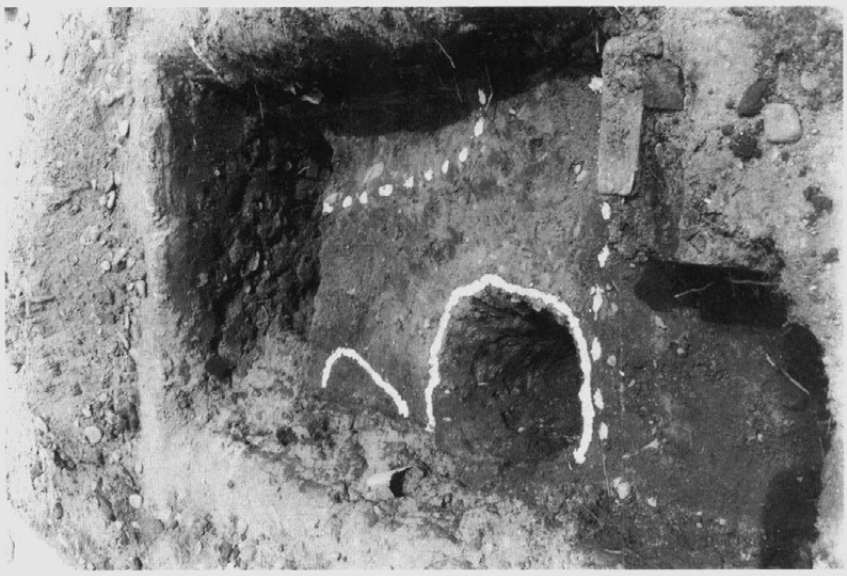
図版2



尾崎清水遺跡05-3区　カマド火床面検出状況(南より)

尾崎清水遺跡05-3区　支脚石掘り方(西より)

尾崎清水遺跡05-3区　カマド完堀状況(南より)



尾崎海岸遺跡05-1区　トレンチ全景(西より)

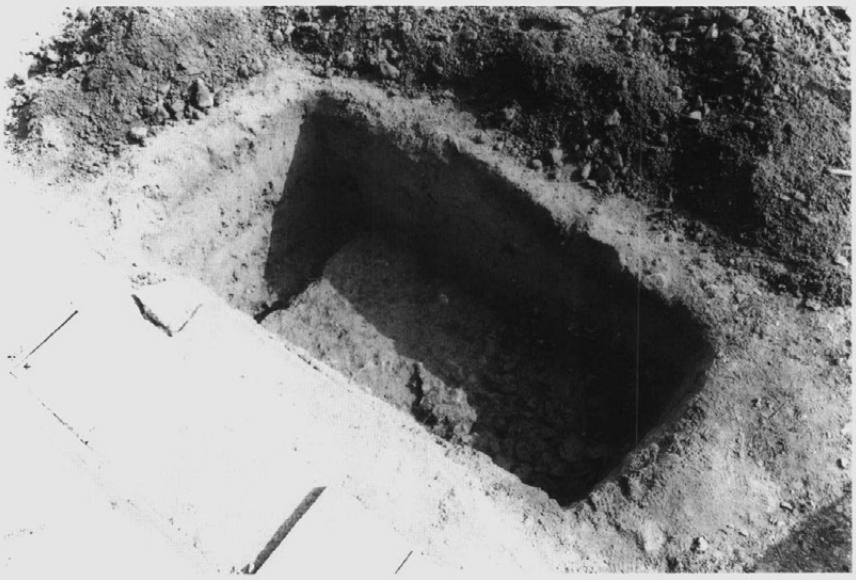
鳥取北遺跡04-1区　トレンチ全景(西より)

西鳥取遺跡04-2区　トレンチ全景(南より)

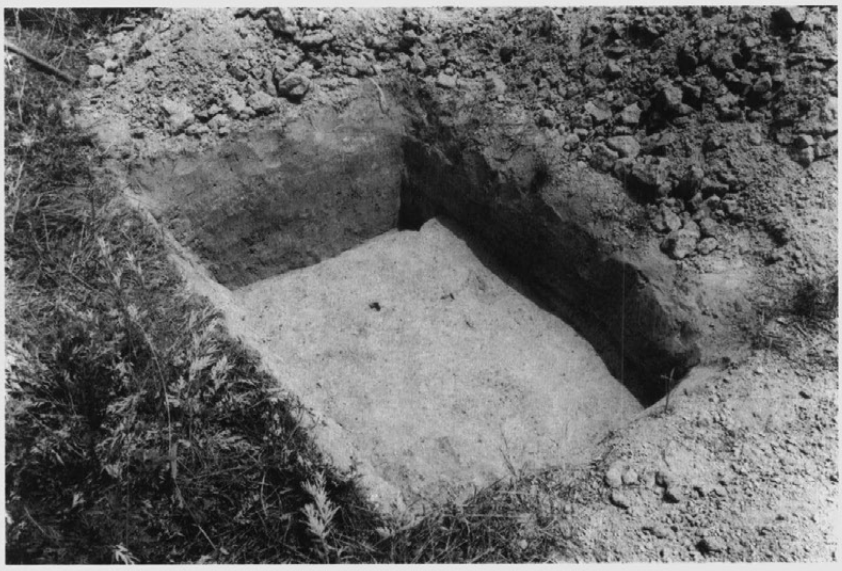
神光寺(蓮池)遺跡04-12区　トレンチ全景(南より)

神光寺(蓮池)遺跡05-6区　トレンチ全景(南より)

神光寺(蓮池)遺跡05-7区　トレンチ全景(南より)



向出遺跡04-1区　トレンチ全景(西より)



貝掛遺跡05-1区　トレンチ全景(北より)

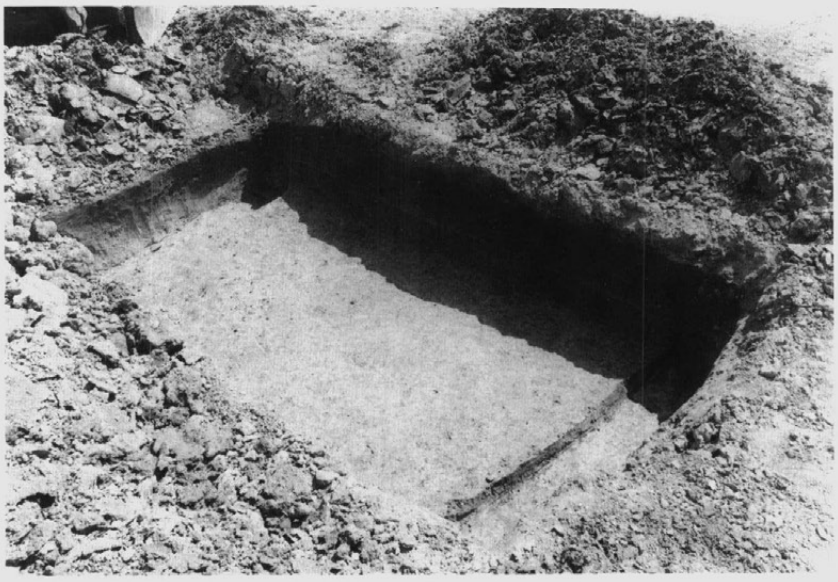
貝掛遺跡05-2区　トレンチ全景(東より)

箱作今池遺跡04-5区　東トレンチ全景(北より)

箱作今池遺跡04-5区　北トレンチ全景(東より)

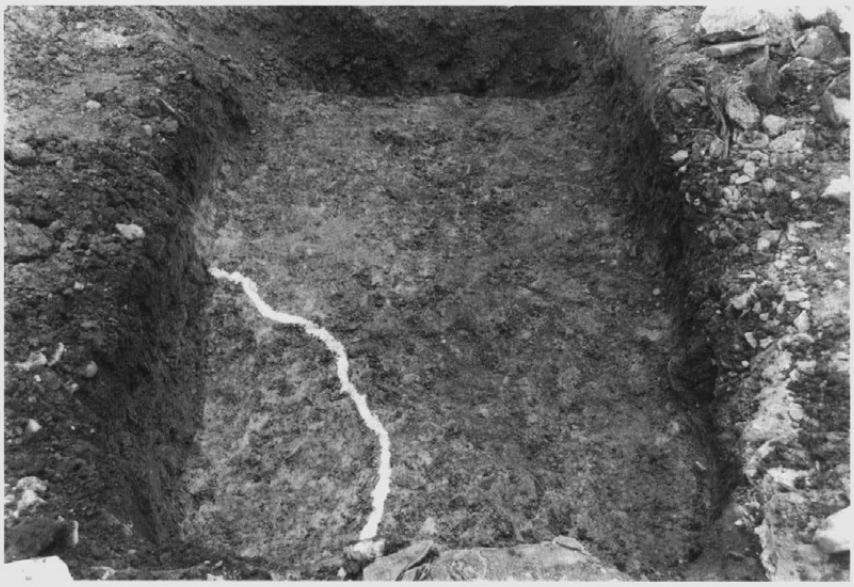
箱作今池遺跡04-5区　西トレンチ全景(南より)

箱作今池遺跡04-6区　トレンチ全景(北より)

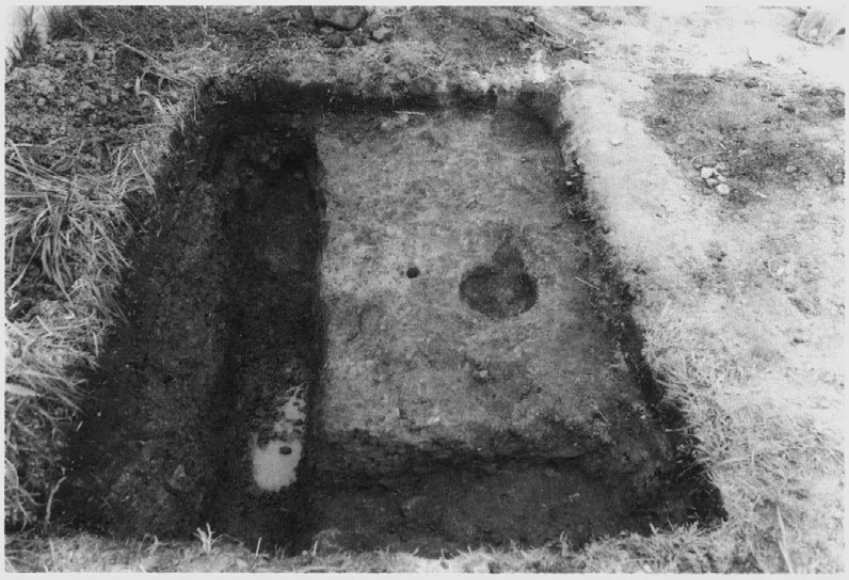


箱作今池遺跡05-2区　トレンチ全景(北より)

箱作今池遺跡05-7区　トレンチ全景(北より)



箱作今池遺跡05-8区　トレンチ全景（北より）

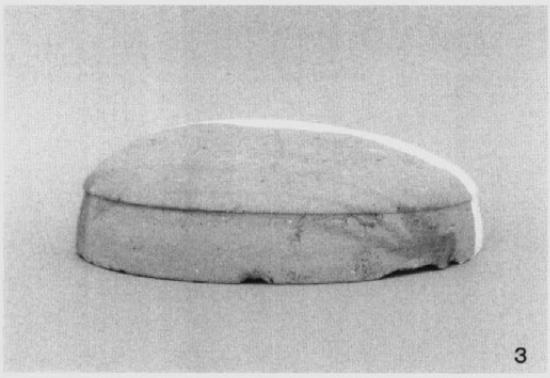


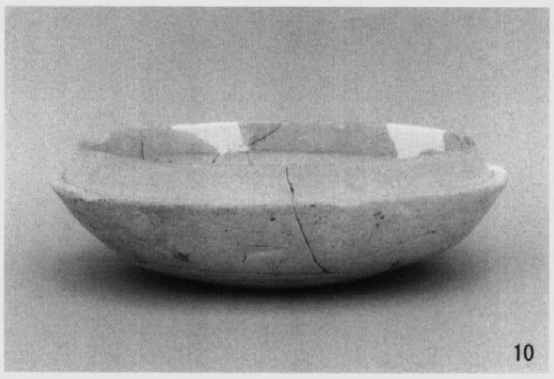
田山東遺跡05-1区　トレンチ全景（東より）

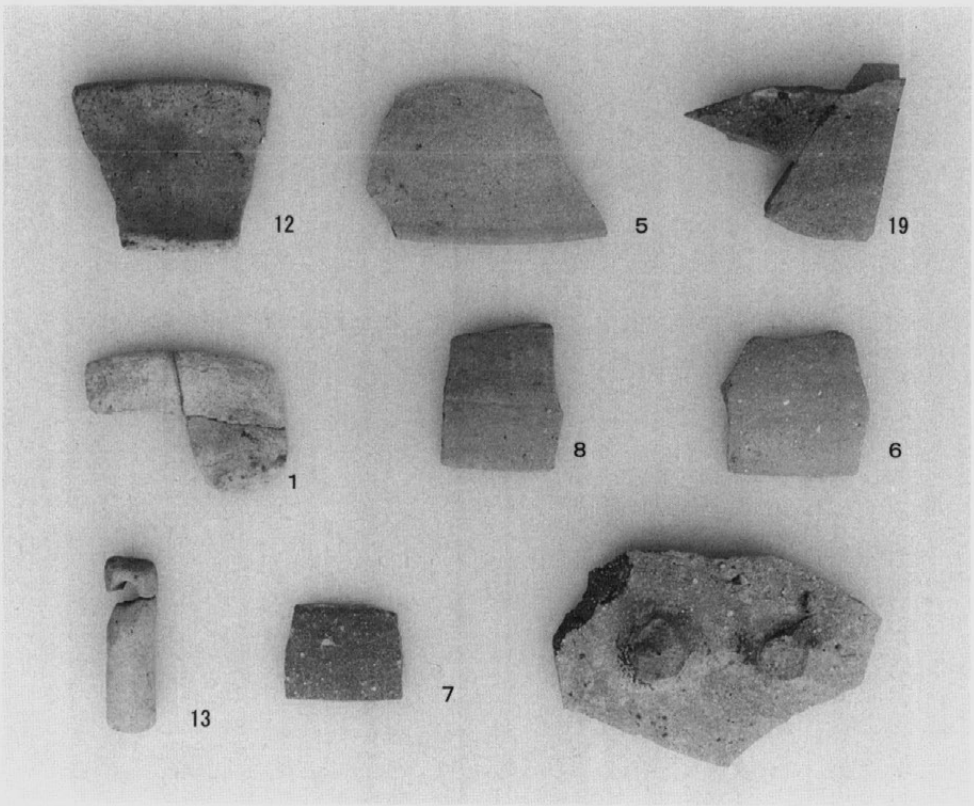
市内分布調査　調査地遠景

市内分布調査　遺物採取地付近

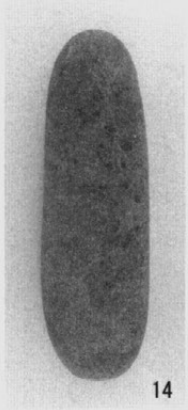
市内分布調査　遺物散布状況

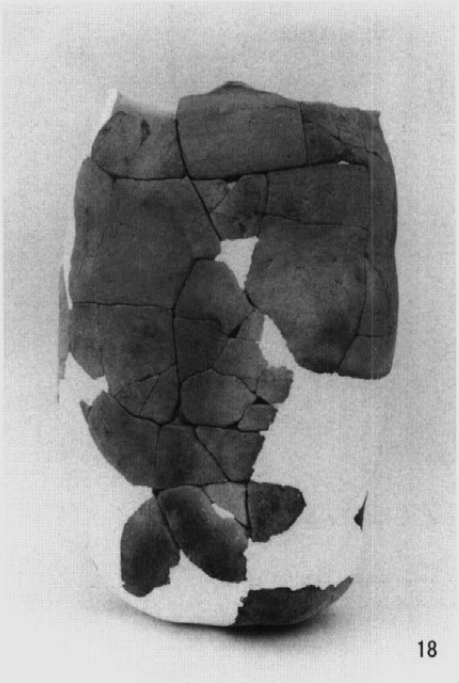


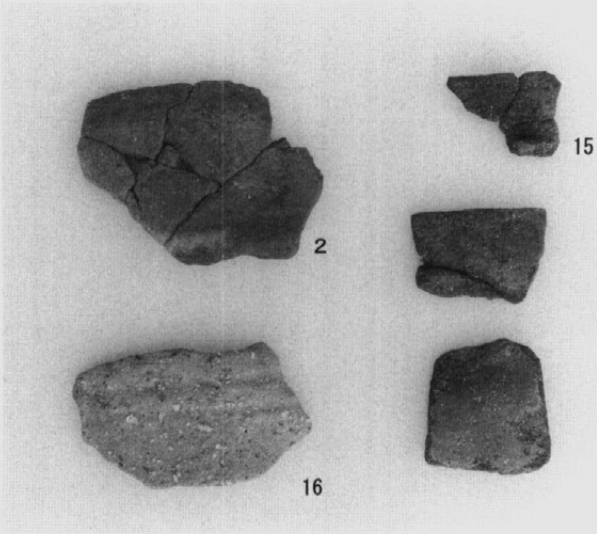




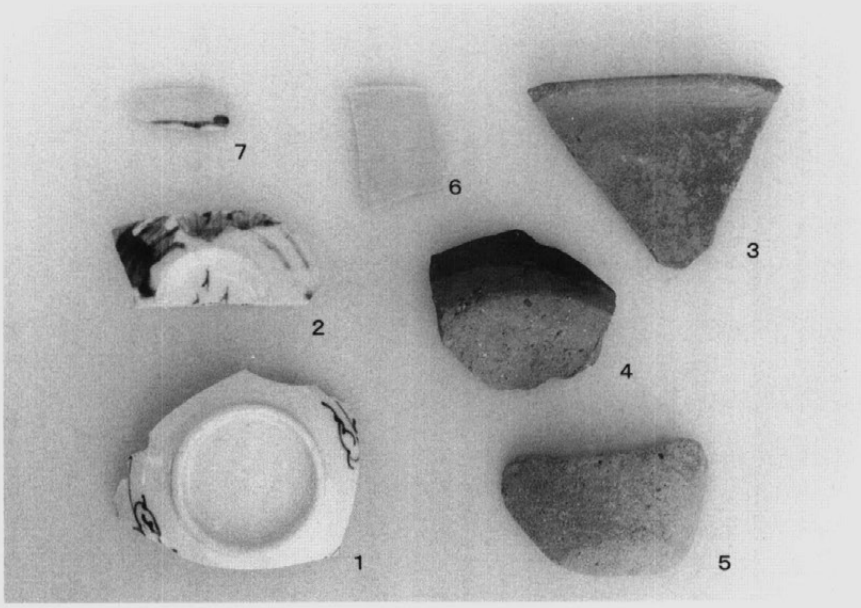
尾崎清水遺跡05-3区　出土遺物



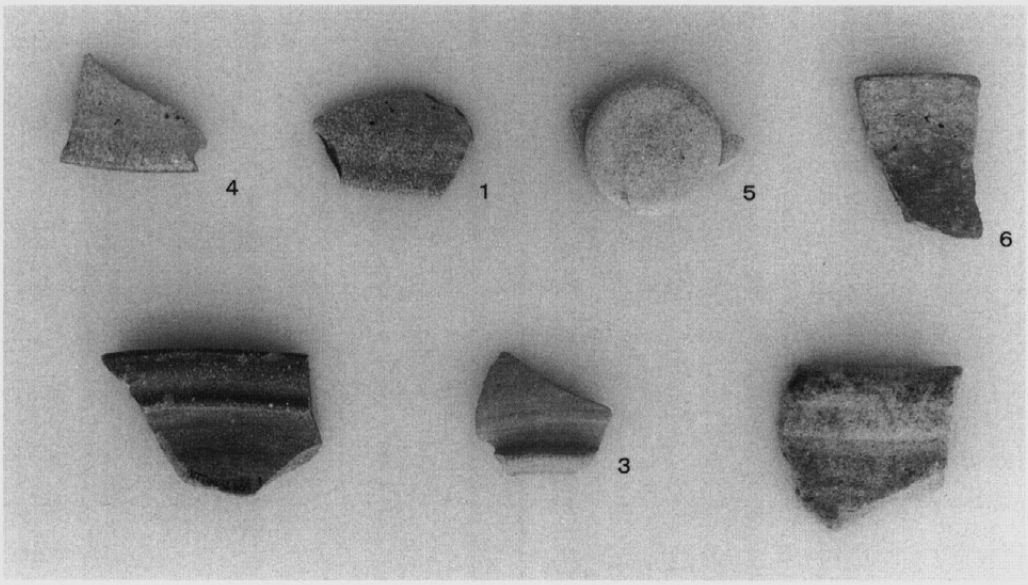




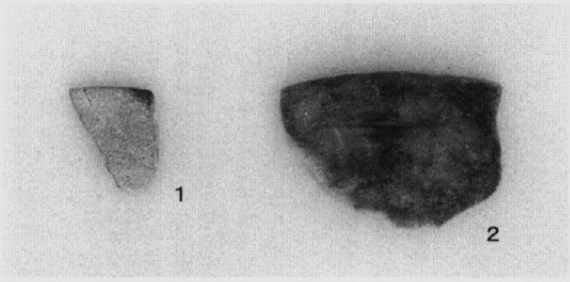
尾崎清水遺跡05-3区　出土遺物



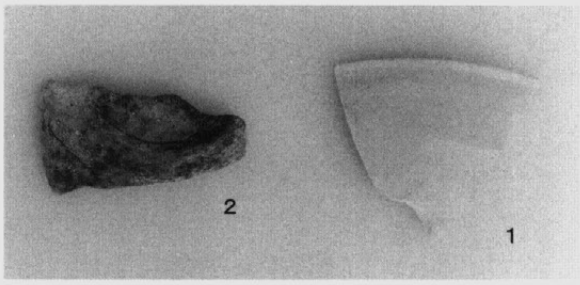
尾崎海岸遺跡05-1区　出土遺物



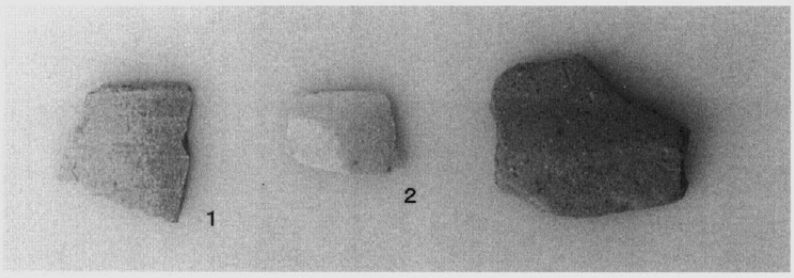
西鳥取遺跡04-2区　出土遺物



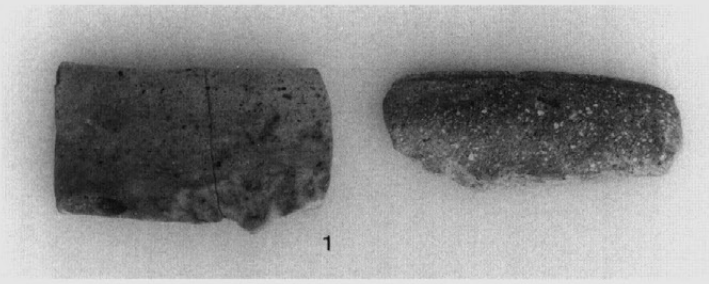
神光寺(蓮池)遺跡04-12区　出土遺物



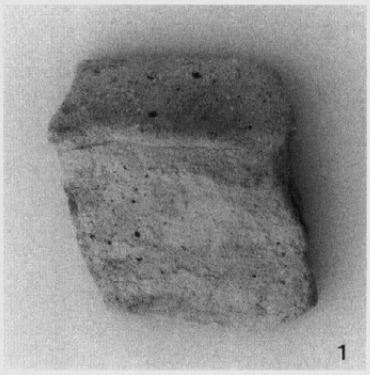
神光寺(蓮池)遺跡05-6区　出土遺物



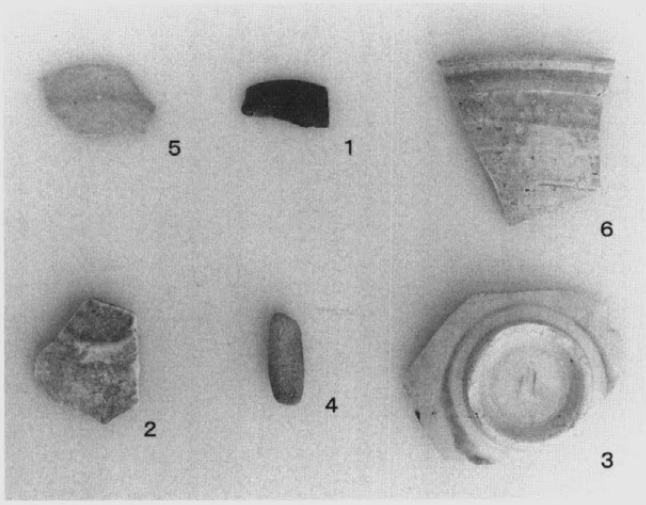
向出遺跡04-1区　出土遺物



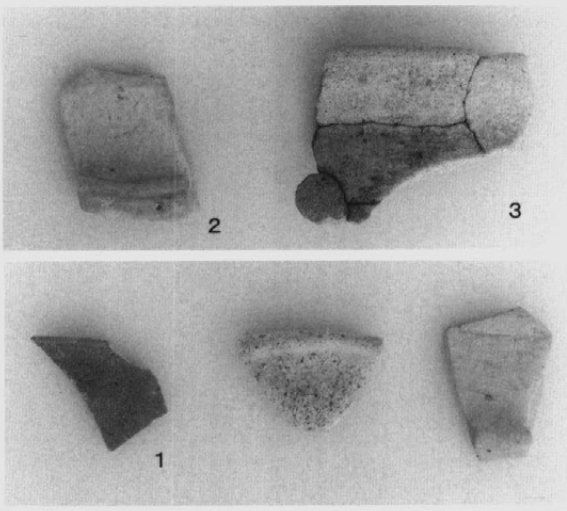
貝掛遺跡05-2区　出土遺物



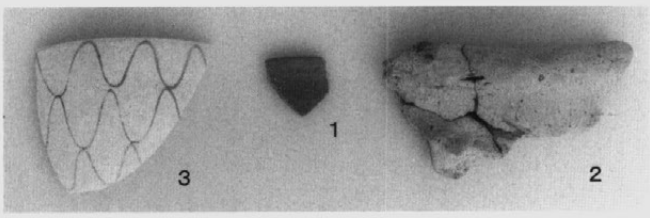
貝掛遺跡05-1区　出土遺物



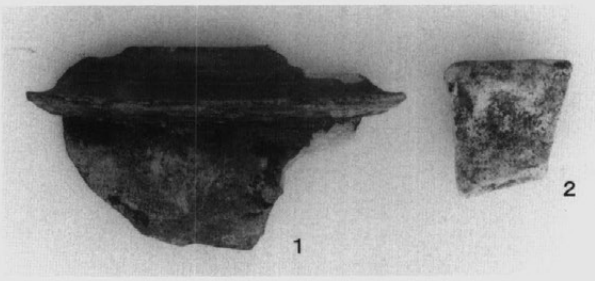
箱作今池遺跡04-5区　出土遺物



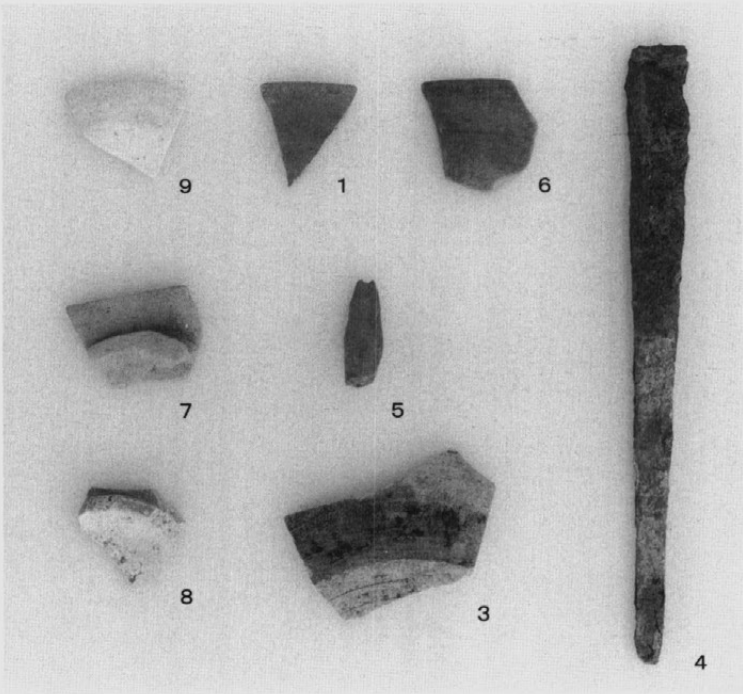
箱作今池遺跡05-2区　出土遺物

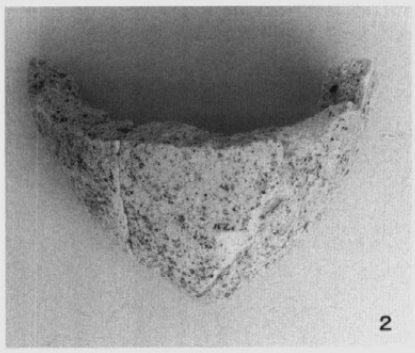


箱作今池遺跡05-7区　出土遺物

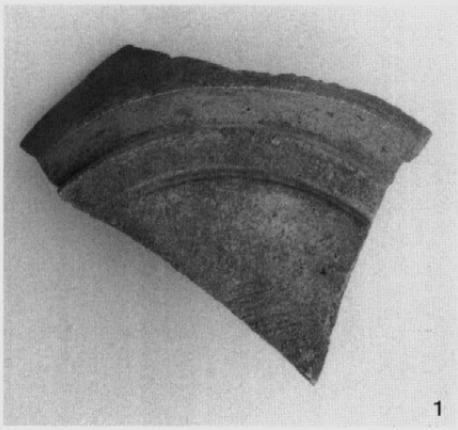


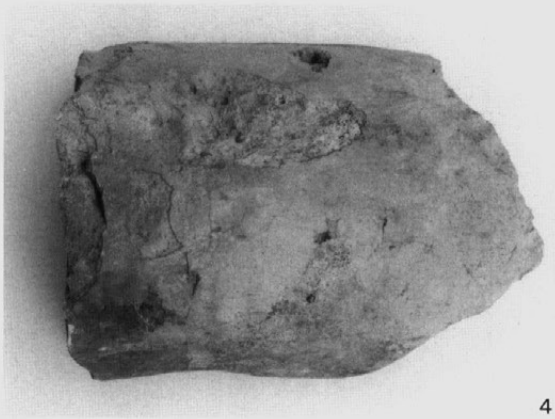
箱作今池遺跡05-8区　出土遺物





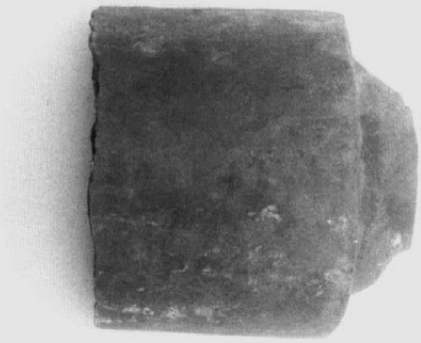
田山東遺跡05-1区　出土遺物

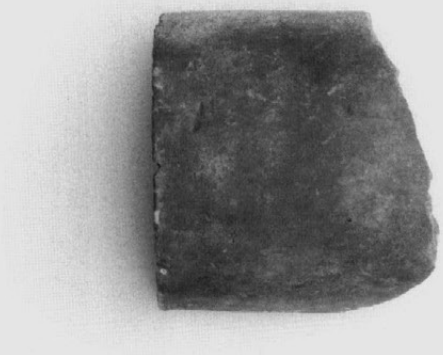

1

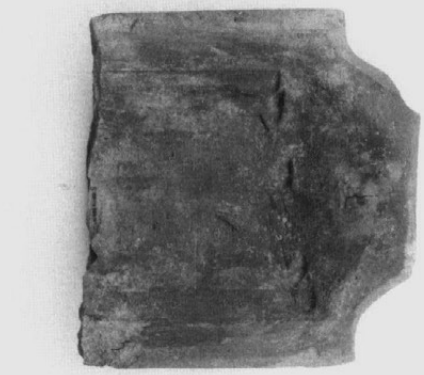

4

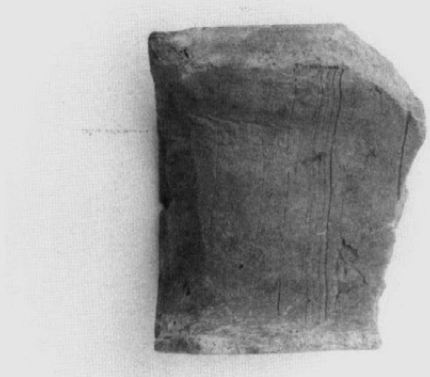
4

4

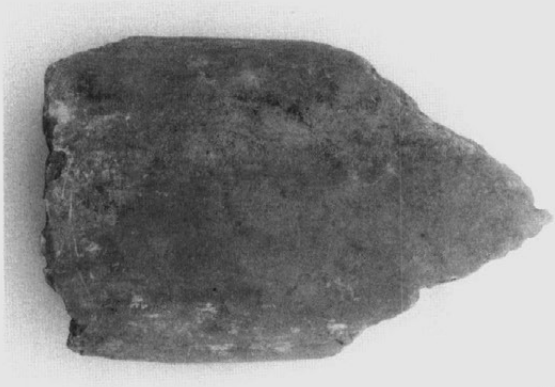

2


3

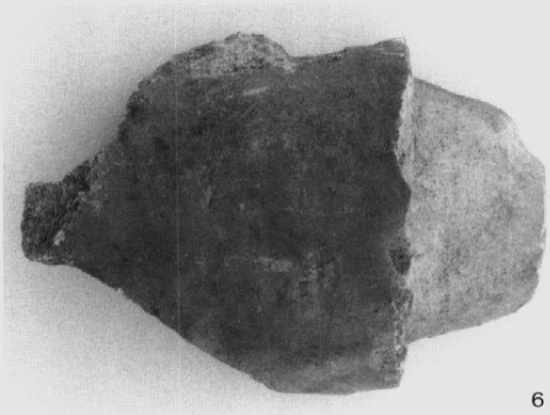

2


3

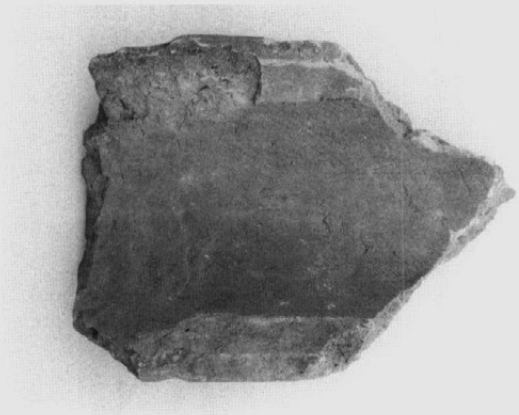
市内分布調査　採取遺物



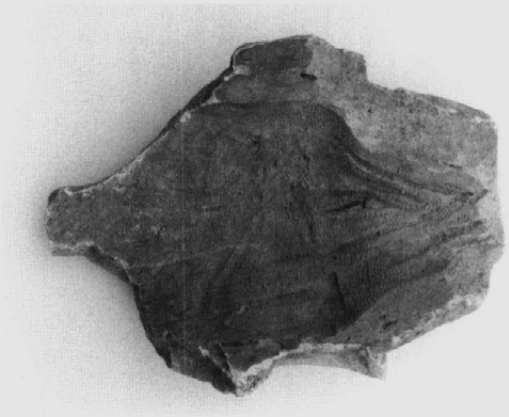
5



6

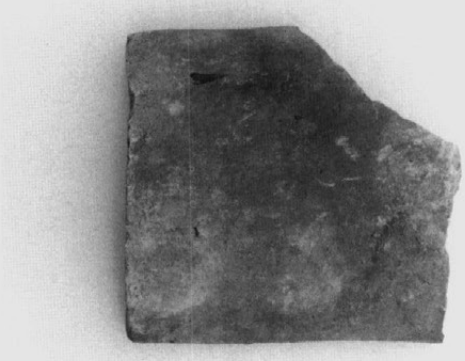


5

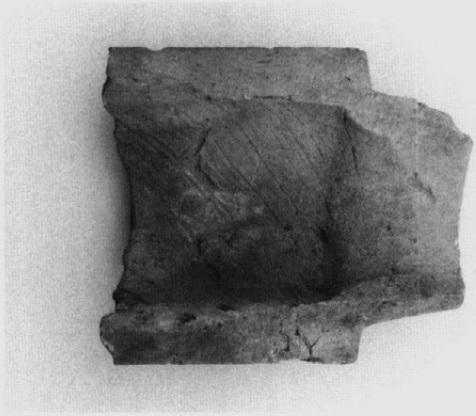


6

7



8



7

8

市内分布調査　採取遺物

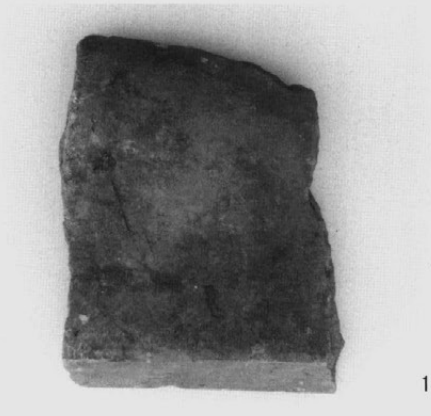
9

10

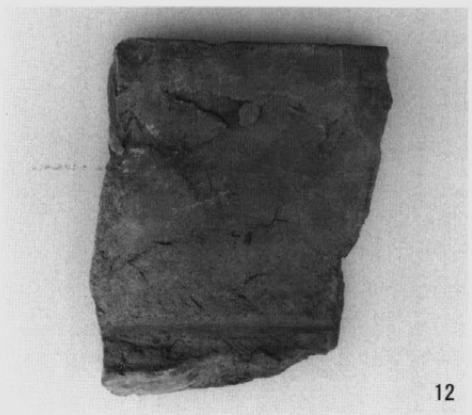
9

10

11


12

11


12

市内跡分布調査　採取遺物

阪南市埋蔵文化財報告 38

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XXI

2006年3月

発　行：阪南市教育委員会生涯学習部
生　涯　学　習　推　進　課
大阪府阪南市尾崎町35の1
印刷者：三　和　印　刷　株　式　会　社